

令和8年度

NETIS説明会（調査・設計者向け）

参考資料

1. NETIS情報の検索と閲覧
2. 活用効果調査表等の作成
3. 工法比較表データベースシステム
4. 九州地整管内の活用件数の多い技術

2026. 7. 10（金） 10:00～10:30

九州地方整備局

参考資料

1. NETIS情報の検索と閲覧
2. 活用効果調査表等の作成
3. 工法比較表データベースシステム
4. 九州地整管内の活用件数の多い技術

NETISの検索方法

2

➤ NETISから新技術の情報収集等が検索可能です。

NETIS

検索

【 NETIS 】で検索

NETISのHPにはじめてアクセスすると、簡単なアンケートと利用上の注意事項と注意事項の同意が求められます。

NETIS

新技術情報提供システム

NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

初めてアクセスされた方へ

ここでは、初めてNETISホームページにアクセスされた方を対象に、利用者の大まかな属性を把握するための簡単なアンケートを実施しています。利用者個人を特定するためのものではありませんので、ご協力ください。

※Cookieの設定が有効になっていない方は、アクセスする度にこの画面が表示されます。

以下の項目から、あなたの職種に最も近いと思われる分野を選んで下さい。

☐ 土木

☐ 建築

☐ 設備

☐ 電力ガス

☐ 製造

☐ 建設コンサルタント

☐ その他

該当する分野を選択します

NETIS（新技術情報提供システム）利用上の注意事項

1. NETIS掲載情報は、当該技術に関する証明、認証その他何らかの技術の裏付けを行うものではなく、新技術活用に当たっての参考情報といった性格のものであること。
2. 特に、申請情報は、技術開発者からの申請に基づく情報であり、その内容について、国土交通省及び評価会議（整備局等）が評価等を行っているものではないこと。また、申請情報のNETIS掲載に伴う苦情、紛争等への対応は、NETIS申請者が行うものであり、国土交通省は何らの責任も有しないこと。
3. 評価情報は、当該技術の活用等を行った結果に基づき評価を行ったものであり、個々の現場の条件その他により評価は変わりうる等の性格を有するものであること。
4. 新技術の活用は、現場毎の条件の適合性による判断に応じて設計・工事担当部署がそれぞれ行うものであり、評価結果に基づき当該技術の活用等の実施が保証されるといった性格のものではないこと。
5. 特許権等知的財産権については、関係法令に基づき取り扱われるものであること。

上記内容について同意できる場合は「OK」、同意できない場合は「CANCEL」をクリックして下さい。

注意事項について同意できる場合は「OK」をクリックして利用ができるようになります。

OK

CANCEL

CLICK

➤ NETIS（新技術情報提供システム）利用時の注意事項

1. NETIS掲載情報は、当該技術に関する証明、認証その他何ら技術の裏付けを行うものではなく、新技術活用に当たっての参考情報といった性格のものであること。
2. 特に、申請情報は、技術開発者からの申請に基づく情報であり、その内容について、国土交通省及び評価会議（整備局等）が評価等を行っているものではないこと。また、申請情報のNETIS掲載に伴う苦情、紛争等への対応は、NETIS申請者が行うものであり、国土交通省は何らの責任も有しないこと。
3. 評価情報は、当該技術の活用等を行った結果に基づき評価を行ったものであり、個々の現場の条件その他により評価は変わりうる等の性格を有するものであること。
4. 新技術の活用は、現場毎の条件の適合性等による判断に応じて設計・工事担当部署がそれぞれ行うものであり、評価結果に基づき当該技術の活用等の実施が保証されるといった性格のものではないこと。
5. 特許権等知的財産権については、関係法令に基づき取り扱われるものであること。

NETISの検索方法

4

- NETISは公共工事等で活用する新技術をまとめたデータベースです。
- 公共工事や業務で活用できる様々な技術（工法・材料・機械・製品・システム等）が掲載されています。
- 新技術はNETISのTOPページから検索することができます。

(R7.4月現在 3,700件)

NETIS
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術情報提供システム

新技術の検索

登録申請/変更・更新
/事前相談

活用効果調査表
/活用計画書

テーマ設定型
の比較表

マッチング

維持管理技術
ページ

震災復旧・復興
支援技術ページ

NETIS登録・
活用数の全体像

マニュアル
/FAQ

新技術を探す

検索キーワード

登録番号での検索時は、情報種別記号（-A、-VR、-VE）の入力は不要です。

or or

▼キーワード検索条件を追加

AIで技術を検索(質問する内容を入力してENTERキー) 試用運用中

NETIS情報を元にしたAI回答結果ですので、最終的な判断や意思決定は必ずご自身の責任において行ってください。

工種

▼工種検索条件を追加

工種検索条件: ☒ and ☐ or

有用な新技術の選択

☐ 推奨技術 ☐ 準推奨技術 ☐ 評価促進技術 ☐ 活用促進技術

旧実施要領での技術の位置付け

☐ 活用促進技術（旧） ☐ 設計比較対象技術 ☐ 少実績優良技術

新技術に期待する効果で更に絞り込む

☐ 経済性の向上 ☐ 工程の短縮 ☐ 品質の向上 ☐ 安全性の向上 ☐ 施工性の向上 ☐ 周辺環境への影響抑制

この条件で検索

▼他の条件を表示

※チェックボックス条件は、1つも選ばない（全件）になります。

申請されている従来技術名の検索

試用現場照会一覧

過去に選定された推奨技術・準推奨技術の一覧

What's NEW

一覧へ

記者発表資料等

一覧へ

2026年04月27日 ☒ 令和8年度推奨技術等として計24技術を選定～過去最多の選定数で工事等技術の一層の強化へ～
で抽出・比較～
数で工事等技術の一層の強化へ～

CO₂削減関連技術

脱炭素社会実現に向けたCO₂削減に関連する技術は [こちら](#)

NETIS（新技術情報提供システム）利用上の注意事項

NETIS（新技術情報提供システム）利用上の注意事項

5. 特許権等知的財産権については、関係法令に基づき取り扱われるものであること。

①キーワード（AIで技術を検索）で検索できます。

②工種で検索できます。

③有用な新技術を選択すると表示されます。

④期待する効果を選択すると表示されます。

⑤条件を入力・選択したら、最後にクリックします。

NETISの検索（登録番号や名称で検索）AIを活用した新機能

5

キーワード入力による検索！

NETISの登録番号や、NETISの製品名を検索キーワードに入力してください。また、利便性向上のために、AIを活用した技術比較表作成機能を実装しました。掲載されている「申請情報」を元に、検索した技術と類似性の高い技術をAIが抽出し、技術と比較する一覧表の作成が可能となります。

The screenshot shows the NETIS search interface. At the top, there's a navigation bar with 'NETIS 新技術情報提供システム' and 'NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM'. Below it, a menu bar includes '新技術の検索', '登録申請/変更・更新/事前相談', '活用効果調査表/活用計画書', 'テーマ設定型の比較表', 'マッチング', '維持管理技術ページ', '震災復旧・復興支援技術ページ', 'NETIS登録・活用数の全体像', and 'マニュアル/FAQ'. The main search area is titled '新技術を探す'. It features a search box with the text '登録番号での検索時、情報種別（-A、-VR、-VE）の入力は不要です。' and a red box highlighting the input 'QS-240001-A'. A red arrow points from this input to a red box labeled '① キーワード入力'. Below the search box, there's a section for 'AIで技術を検索(質問する内容を入力してENTERキー) 試用運用中'. To the right, there's a 'What's NEW' section with recent updates. Below that, there's a 'CO2削減関連技術' section. At the bottom, there's a 'NETISとは' section. A red arrow points from the search box to a red box labeled '② クリック'.



① 検索技術名称・NETIS登録番号のキーワード（AIで技術を検索）を入力

※NETIS番号で検索する場合、末尾の識別記号「-A」は、評価会議において「VR」や「VE」に変更する場合があるので入力しません。

② 「この条件で検索」をクリック

※【キーワード検索条件を追加】で対象の両単語とも含まれる技術を検索できます。

③ 該当する技術が表示される

The screenshot shows the NETIS search results page. At the top, there's a search bar with the text '検索キーワード' and a red box labeled '③ NETIS技術表示'. Below the search bar, there's a table of search results. The table has columns for '比較', 'No.', '技術概要', 'アブストラクト', '写真', '登録年度', '最終評価年月日', and '技術の位置付け'. The first result is '1 地中変位計 ShapeArray CLOUD (シェイプアレイクラウド) (QS-240001-A)'. To the right of the table, there's a '絞り込み' (Filter) section with a list of categories: '土木 (1)', '共通工 (1)', '基礎工 (0)', 'コンクリート工 (0)', '仮設工 (0)', '河川海岸 (0)', '河川維持 (0)', and '砂防工 (0)'. A red arrow points from the search bar to the '絞り込み' section.

NETISの検索（有用な新技術で検索）

6

有用な新技術を選択！

活用の効果の高い「有用な新技術」を検索することができます。

（令和8年6月現在）

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索 登録申請/変更・更新/事前相談 活用効果調査表/活用計画書 テーマ設定型の比較表 マッチング 維持管理技術ページ 震災復旧・復興支援技術ページ NETIS登録・活用数の全体像 マニュアル/FAQ

新技術を探す

検索キーワード
登録番号での検索時は、情報種別記号（-A、-VR、-VE）の入力は不要です。

▼キーワード検索条件を追加

AIで技術を検索(質問する内容を入力してENTERキー) 試行運用中
NETIS情報を元にしたAI回答結果ですので、最終的な判断や意思決定は必ずご自身の責任において行ってください。

工種 工種分類一覧

▼工種検索条件を追加

①有用な技術を選択

有用な新技術の選択
☒ 推奨技術 ☒ 準推奨技術 ☒ 評価促進技術 ☒ 活用促進技術

旧実業要領での技術の位置付け
☐ 活用促進技術（旧） ☐ 設計比較対 技術 ☐ 少実績優良技術

新技術に期待する効果で更に絞り込む
☐ 経済性の向上 ☐ 工程の短縮 ☐ 品質の向上 ☐ 安全性の向上 ☐ 施工性の向上
☐ 周辺環境への影響抑制

この条件で検索 他の条件を表示

※チェックボックス（ ）になります。
申請されている 試行現場照会一覧
過去に選定された推奨技術・準推奨技術の一覧

利用上の注意

What's NEW

- 2026年03月16日 新技術積算基準類（15技術）の通知について
- 2026年01月05日 活用効果調査表における「当該技術に関連しない項目である」を使…
- 2025年10月01日 AIで技術比較が一目瞭然！NETISに新機能を実装～類似技術をAI…

記者発表資料等

2026年04月27日 令和8年度推奨技術等として計24技術

③NETIS技術表示

比較	No.	技術概要	写真	登録年度	最終評価年月日	技術の位置付け	活用効果調査（件数）
☐	1	ハクオール （KT-220019-VE） 本技術は撥水性を高めたコンクリート型枠用剥離剤である。従来は鉱物油を主成分とした剥離剤であった。本技術の活用により、気泡が原因の補修工程を削減し、緻密で高品質な色ムラのないコンクリートとなる。撥水効果で離型性とノロ付着の低減効果に優れ作業性も向上する。		2022 (R04)	2023/09/25 (R05/09/25)	★ 活用促進	33 件
☐	2	塗布量管理革命「シールdeチェッカー」 （SK-210002-VE） コンクリート構造物の表面に貼り付けて、コンクリート表面含浸材が規定塗布量以上に塗布又は散布されているかを確認するための塗布量確認シールである。従来のマット式確認法は3工程が必要であったが、本技術は変色確認の1工程で済み、経済性の向上や工程の短縮が図れる。		2021 (R03)	2024/02/19 (R06/02/19)	★ 活用促進	9 件
☐	3	中圧噴射機械攪拌工法(MITS工法CMS-ICTシステム) （QS-210009-VE） 本技術は、深層混合処理(スラリー攪拌工)に関する技術である。ICT対応バックホウタイプの地盤改良機、		2021 (R03)	2023/09/25 (R05/09/25)	★ 活用促進	8 件

- 有用な新技術 (321件)
- ・ 推奨技術 (51件)
 - ・ 準推奨技術 (33件)
 - ・ 評価促進技術 (4件)
 - ・ 活用促進技術 (297件)

NETISの検索（工種で検索）

7

工種で絞り込む！

レベル4までの工種に分類されているので、絞り込むことができます。

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索 登録申請/変更・更新/事前相談 活用効果調査表/活用計画書 テーマ設定型の比較表 マッチング 維持管理

新技術を探す

検索キーワード
登録番号での検索時は、情報種別記号（-A、-VR、-VE）の入力は不要です。
or or
▼キーワード検索条件を追加

AIで技術を検索(質問する内容を入力してENTERキー) 試用運用中
NETIS情報を元にしたAI回答結果ですので、最終的な判断や意思決定は必ずご自身の責任において行ってください。
1 工種を選択

工種
レベル1 レベル2 レベル3 レベル4 工種分類一覧
共通工 軟弱地盤処理工 施工管理 品質管理
▼工種検索条件を追加 工種検索条件: and or

有用な新技術の選択
☐ 推奨技術 ☐ 準推奨技術 ☐ 評価促進技術 ☐ 活用促進技術 説明

旧実施要領での技術の位置付け
☐ 活用促進技術（旧） ☐ 設計比較対象技術 ☐ 少実績優良技術 説明

新技術に期待する効果で更に絞り込む
☐ 経済性の向上 ☐ 工程の短縮 ☐ 質の向上 ☐ 安全性の向上 ☐ 施工性の向上
☐ 周辺環境への影響抑制

この条件で検索 他条件を表示

※チェックボックス条件は 2 クリック します。
申請されている従来技術の一覧
試用現場照会一覧
過去に選定された推奨技術・準推奨技術の一覧
利用上の注意

What's NEW
2026年03月16日
2026年01月05日
2025年10月01日

記者発表資料等
2026年04月27日 令和8年度推奨技術等として計24技術を選定～過去最多の選定数…
2025年10月01日 AIで技術比較が一目瞭然！NETISに新機能を実装～類似技術をAI…
2025年04月25日 令和7年度…過去最…

3 NETIS技術表示

比較	No.	技術概要	アブストラクト	選択	写真	登録年度	最終評価年月日	技術の位置付け	活用効果調査（件数）	活用状況
☐	1	大深度先端位置計測システム（KT-230278-A） 本技術は相対攪拌式深層混合処理工法（DCS工法）を対象に施工中リアルタイムに攪拌翼の先端位置を計測し可視化するシステムである。本技術の活用により孔曲がり等が早い段階で修正できる。また、先端位置を所定の位置に精度良く誘導することによって品質の向上が図れる。				2023 (R05)				
☐	2	盛土併用真空圧密工法の自動動態観測システム（HK-200012-A） 本技術は、軟弱地盤上の盛土の安定管理を行う技術で、従来は変位杭と沈下板を人力による測量で計測管理していた。本技術の活用により自動追尾型計測による省人化が図られ、1日の測定回数が増えることにより盛土安定管理の精度が向上する。				2020 (R02)				
☐	3	杭打太郎（KK-190022-A） 本技術はデジタルカメラ搭載型トータルステーションとモニタ画像による杭の打設位置、鉛直度、打設深さを誘導するシステム技術であり、従来はトランシットによる杭打設管理を行っていた。本技術の活用により、経済性、施工性の向上が期待できる。				2019 (R01)			1件	

NETISの検索（期待する効果で検索）

8

新技術に期待する効果で絞り込む！

経済性、工程、品質、安全性、施工性、周辺環境のうち期待する効果で絞り込むことができます。

NETIS 新技術情報提供システム NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

[新技術の検索](#)[登録申請/変更・更新
/事前相談](#)[活用効果調査表
/活用計画書](#)[テーマ設定型
の比較表](#)[マッチング](#)[維持管理技術
ページ](#)[震災復旧・復興
支援技術ページ](#)[NETIS登録・
活用数の全体概](#)

新技術を探す

検索キーワード
登録番号での検索時は、情報種別記号（-A、-VR、-VE）の入力は不要です。

or or

▼キーワード検索条件を追加

AIで技術を検索(質問する内容を入力してENTERキー) 試用運用中
NETIS情報を元にしたAI回答結果ですので、最終的な判断や意思決定は必ずご自身の責任において行ってください。

What's NEW

2026年03月16日 新技術積算基準類（15技術）の通知について
2026年01月05日 活用効果調査表における「当該技術に関連し
2025年10月01日 AIで技術比較が一目瞭然！NETISに新機能を

記者発表資料等

2026年04月27日 令和8年度推奨技術等として計24技術を選定～過去最多の選定…
2025年10月01日 AIで技術比較が一目瞭然！NETISに新機能を実装～類似技術…
2025年04月25日 令和7年度推奨技術・準推奨技術として計23技術を選定～過去…

CO₂削減関連技術

比較	No.	技術概要	アブストラクト	選択	写真	登録年度	最終評価年月日	技術の位置付け	活用効果調査（件）
☐	1	亜鉛膜加熱接合法「AG-EGAL」（CG-260002-A） 本技術は、特殊加工した亜鉛膜を電熱器具等で加熱し、低融点合金により損傷部に融着する工法で、従来は、高濃度亜鉛末塗料による塗装で対応していた。本技術の活用により、耐食性に優れ、補修頻度を軽減でき、乾燥時間が不要なため、品質、施工性が向上し、工程が短縮する。				2026 (R08)			
☐	2	1100看板スタンド（TH-260002-A） 本技術は標識の必要な現場に標示看板を固定する為のスタンドで、従来はスチール等の鋼製で看板と保護材をタッピングネジで直接打込んで固定していた。本技術の活用により、工具を使用する事なく看板の取付け交換が可能で、作業工程短縮と施工性の省力化が図れる。				2026 (R08)			
☐	3	塗膜厚自動検票システム「COAT VISION」（KK-260006-A） 本技術は、塗膜厚測定において、ペンシル型測定機とスマホを連携し、測定値や傾向の読み上げ、QRコードでの位置特定と自動記録・帳票作成・クラウドによる				2026 (R08)			

①工種を選択

工種
道路維持修繕工

工種分類一覧

工種検索条件：☒ and ☐ or

②期待する効果を選択

有月な新技術の選択
☐ 推奨技術 ☐ 準推奨技術 ☐ 評価促進技術 ☐ 活用促進技術

旧実施要領での技術の位置付け
☐ 活用促進技術（旧）

新技術に期待する効果で更に絞り込む
☐ 経済性の向上 ☒ 工程の短縮 ☐ 品質の向上 ☐ 安全性の向上 ☐ 施工性の向上
☐ 周辺環境への影響抑制

この条件で検索

③クリック

※チェックボックス条件は、1つも選択（白）または、（全選択）にのみ使えます
申請されている従来技術名
試用現場照会一覧
過去に選定された推奨技術・準推奨技術の一覧

利用上の注意

（例）道路維持工事で工期短縮できる新技術があるかを検索する場合

↓

工種で道路維持修繕工を選択しさらに工程の短縮に☒を入れて検索する。

④NETIS技術表示

- 国土交通省発注工事で活用され、国の機関により活用後の事後評価を受けた新技術のうち、特に優れた技術と認められたものが「有用な新技術」として取り扱われ、「推奨技術」「準推奨技術」「評価促進技術」「活用促進技術」に分類されます。

新技術概要説明情報

NETIS登録番号	
技術名称	
アブストラクト	
事後評価	事後評価済み技術 2023/03/07 (R05/03/07)
テーマ設定型比較表への掲載	無
受賞等	建設技術審査証明※
事前審査・事後評価	事前審査 試行実証評価 活用効果評価
技術の位置付け (有用な新技術)	推奨技術 令和5年度選定 2023/06/05 (R05/06/05) ~ 準推奨技術 評価促進技術 活用促進技術 令和4年度選定 2023/03/07 (R05/03/07) ~
旧実施要領における 技術の位置付け	活用促進技術(旧) 設計比較対象技術 少実績優良技術
活用効果調査入力様式	-VE 活用効果調査表の作成・登録 活用効果調査は不要です。（フィールド提供型、テーマ設定型で活用する場合を除く。）
適用期間等	-VE評価：2023/3/7（R5/3/7）～ 活用促進技術：2023年3月7日～ 推奨技術：2023年6月5日～

事後評価済技術は、青色で表示されます。
また、事後評価結果が閲覧できます。

有用な技術に指定された技術は、
赤字で表示されます。

NETISの検索（従来技術との比較）

10

- 各々の新技術の閲覧画面には、技術の概要、従来技術との比較など、申請時の情報が掲載されています。
- 【従来技術との比較】には、新技術開発者が一般的な条件での従来技術を設定し、新技術との比較を行った場合の「経済性」「工程」等の活用の効果および根拠等が掲載されています。

概要 従来技術との比較 特許・審判証明 単価・施工方法 問合せ先・その他 詳細説明 資料

活用効果

比較する従来技術 スラリー攪拌工法+先行掘削工

閲覧したい項目をクリックします。

新技術と比較する従来技術が確認できます。

項目	活用の効果	比較の根拠
経済性	向上 (49.59%) 同程度 低下	従来技術と比較して、先行掘削工が不要となり、コスト削減が可能となる。
工程	短縮 (63.92%) 同程度 増加	従来技術と比較して、先行掘削工が不要となり、工期短縮が可能となる。
品質	向上 同程度 低下	従来技術と比較して、相対攪拌のため混練性能が向上する。
安全性	向上 同程度 低下	従来技術と比較して、先行掘削の工程が不要となり、危険要因が減少する。
施工性	向上 同程度 低下	従来技術と比較して、先行掘削の工程が不要となり、一工程で施工が可能となる。
周辺環境への影響	向上 同程度 低下	
	向上 同程度 低下	
	向上 同程度 低下	
その他、技術の アピールポイント等	従来は、地中障害物混在地盤等では深層混合処理施工が困難であったが、新技術では様々な地盤条件に対応可能となる。	
コストタイプ	並行型：B(+)型	

NETISの申請情報は、申請者が従来技術と比較した場合の活用の効果と根拠が記載されています。
参考資料として確認してください。

活用効果の根拠

基準とする数量	100.00	単位	本
	新技術	従来技術	向上の程度
経済性	42,640,800円	84,587,600円	49.59 %
工程	35日	97日	63.92 %

新技術の内訳

項目	仕様	数量	単位	単価	金額	摘要
----	----	----	----	----	----	----

NETIS情報（活用効果評価結果）

11

- 直轄工事での活用が行われた技術に対して、新技術の活用効果等を総合的に判断するため、活用時に行う調査の結果に基づき、当該技術の優位性、安定性、現場適用性が総合的に評価されています。

活用効果評価一覧

NETIS登録番号	
技術名称	
評価回数	活用効果評価ファイル（公開版）
1 回目	活用効果評価へ

活用効果評価一覧が表示され、「活用効果評価へ」をクリックすると活用効果評価結果が閲覧できます。

活用効果評価結果

令和2年度

九州地方整備局 / 新技術活用評価会議

NETIS情報	開発目標	経済性の向上、安全性の向上、品質の向上			
	新技術登録番号	区分	工法	有用な技術の位置づけ	活用促進技術
	分類	共通工 - 深層混合処理工 - 固結工 - セメントミルク攪拌工			
	新技術名				
	比較する従来技術（従来工法）				
活用効果評価	新技術の概要及び特徴	本技術は、地盤改良工において障害となる地中障害物存在地盤における地盤改良技術であり、従来は事前に先行掘削工等の「工」工法による対応が必要であった。本技術の活用により、補助工法が不要となりコスト削減・工期短縮が可能となる。			
	所見	【優れていた所】 【経済性】 - 先行掘削等が不要なため、経済性に優れている。 【工程】 - 先行掘削等が不要なため、工期が短縮できる。 【品質・出来形】 - QS-*****-VE - 相対攪拌による撹り混ぜ性能の向上により、改良体の品質が向上する。 【安全性】 - 先行掘削等が不要なため、重機災害の危険要因が減少する。 【施工性】 - 先行掘削等が不要で、1工程で改良体の施工が可能のため、施工性に優れている。 【劣っていた所】 特記事項なし			
	活用効果評価	当該技術は、追跡調査や評価項目の見直しは不要であり、比較する従来技術も妥当である。また、今後も評価結果の変動は小さいと考えられることから、継続調査の必要性はない。よって、情報種別記号「-VE」とする。			
	留意事項	特記事項なし			
	当該技術における改良点及び装置	特記事項なし			

クリック

様式 V-5

活用効果評価における「所見」「留意事項」

活用効果評価結果	項目	おおよそ年度																	項目の平均値（点）	従来技術（従来工法）の平均値（点）
		R1	H31	H31	H31	H31	H31	H31	H31	H31	H31	H31	H31	H31	H31	H31	H31	H31		
参考	経済性	A	B	B	B	A	A	A	A	B	A								B	C
	工程	A	B	A	B	A	A	A	A	B	A								A	C
	品質・出来形	C	A	B	B	B	B	B	B	B	B								B	C
	安全性	C	B	B	B	A	B	C	C	B									B	C
	施工性	C	B	B	B	A	A	B	B	A									B	C
	環境	C	C	B	C	B	B	B	C	B									C	Y
総合評価点		B	B	B	B	B	B	B	B	B									B	C
今後、当該技術を活用出来る工事に見直しを		今後最も活用したい																	各項目における判定	
(H28.4月以降の活用効果調査結果を以て判定)		50%																	A 従来技術より優れる	
		39%																	B 従来技術より優れる	
		11%																	C 従来技術と同等	
		0%																	D 従来技術より劣る	

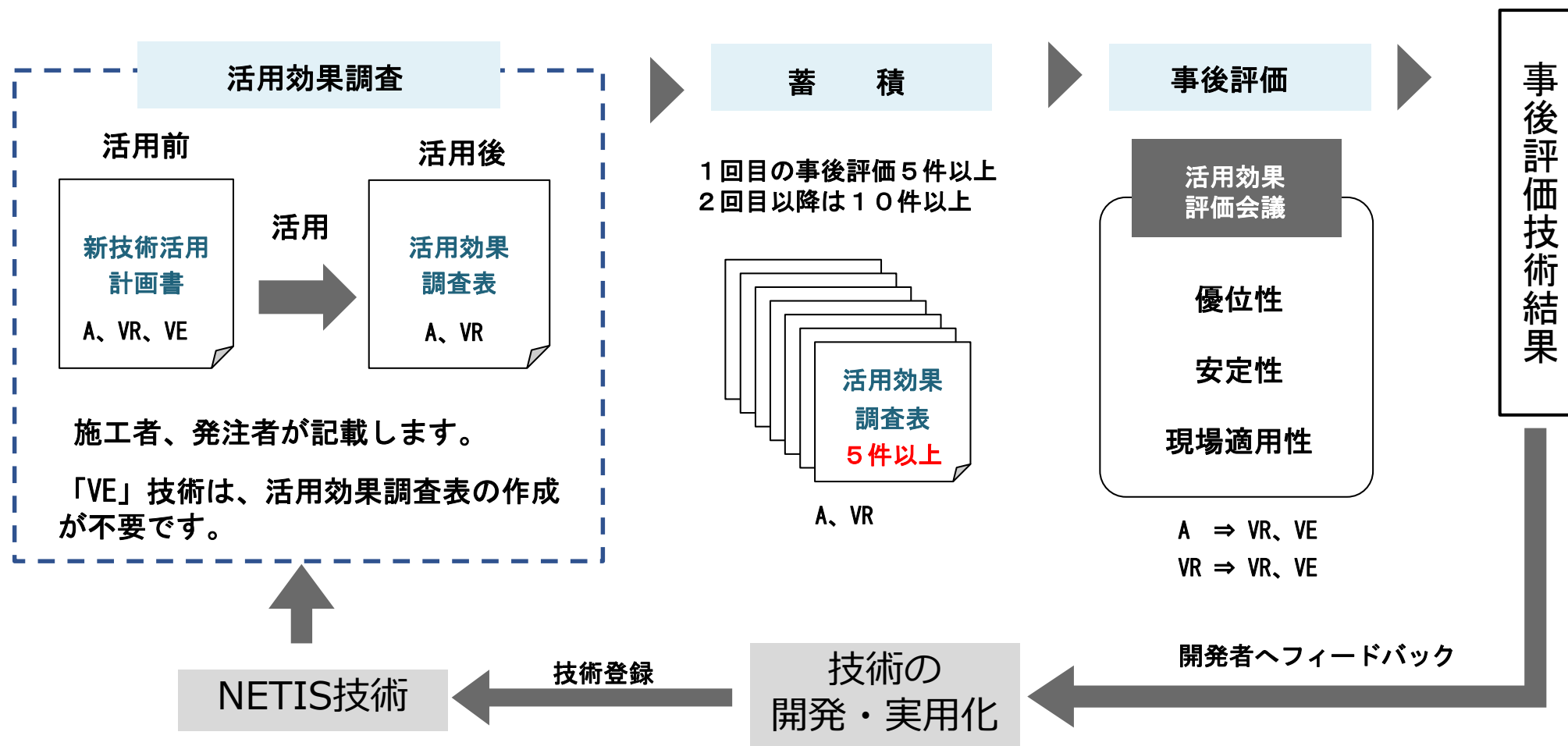
活用効果調査結果

参考資料

1. NETIS情報の検索と閲覧
2. 活用効果調査表等の作成
3. 工法比較表データベースシステム
4. 九州地整管内の活用件数の多い技術

- 新技術の活用時には、活用効果調査を行います。
- 活用効果調査表が5件以上蓄積したら、大学、産業界、研究機関、行政等からなる技術活用評価会議で技術特性などが評価されます。

事後評価の流れ（発注者指定型、施工者選定型）



➤ 事後評価において、優れていると判断された新技術は、有用な新技術として選定されます。

新技術活用評価会議（地方整備局）

活用促進技術

- ・ 総合的に活用の効果が優れている技術
- ・ 特定の性能又は機能が特に優れている技術
- ・ 特定の地域のみで普及しており、全国に普及することが有益と判断される技術
- ・ その他評価会議が選考し指定する技術

※平成26年4月1日より、従来の「活用促進技術」「設計比較対象技術」「少実績優良技術」を「活用促進技術」に統合



推薦

新技術活用スキーム検討会議（全国）

推奨技術

- ・ 公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された画期的な新技術

準推奨技術

- ・ 上記の推奨技術と位置づけるためには更なる発展を期待する部分がある新技術

直轄工事での活用効果調査の重要性

- 活用効果調査表は、直轄工事等で活用された新技術の有用性を検証し、評価することを目的とした事後評価にかかせない重要な基礎資料です。厳正な評価をお願いします。
- 不備のない厳正な調査表の作成により**施工者・発注者のメリットにつながる**。

調査表の内容について疑義があると、再確認する必要があります！
調査表の内容について疑義があると、事後評価の際〔数年後〕に問合せが来る場合があります。

活用効果調査表が
5件蓄積されても



4件



1件



評価可能な調査表



活用効果調査表が
5件以上で実施

新技術活用
評価会議

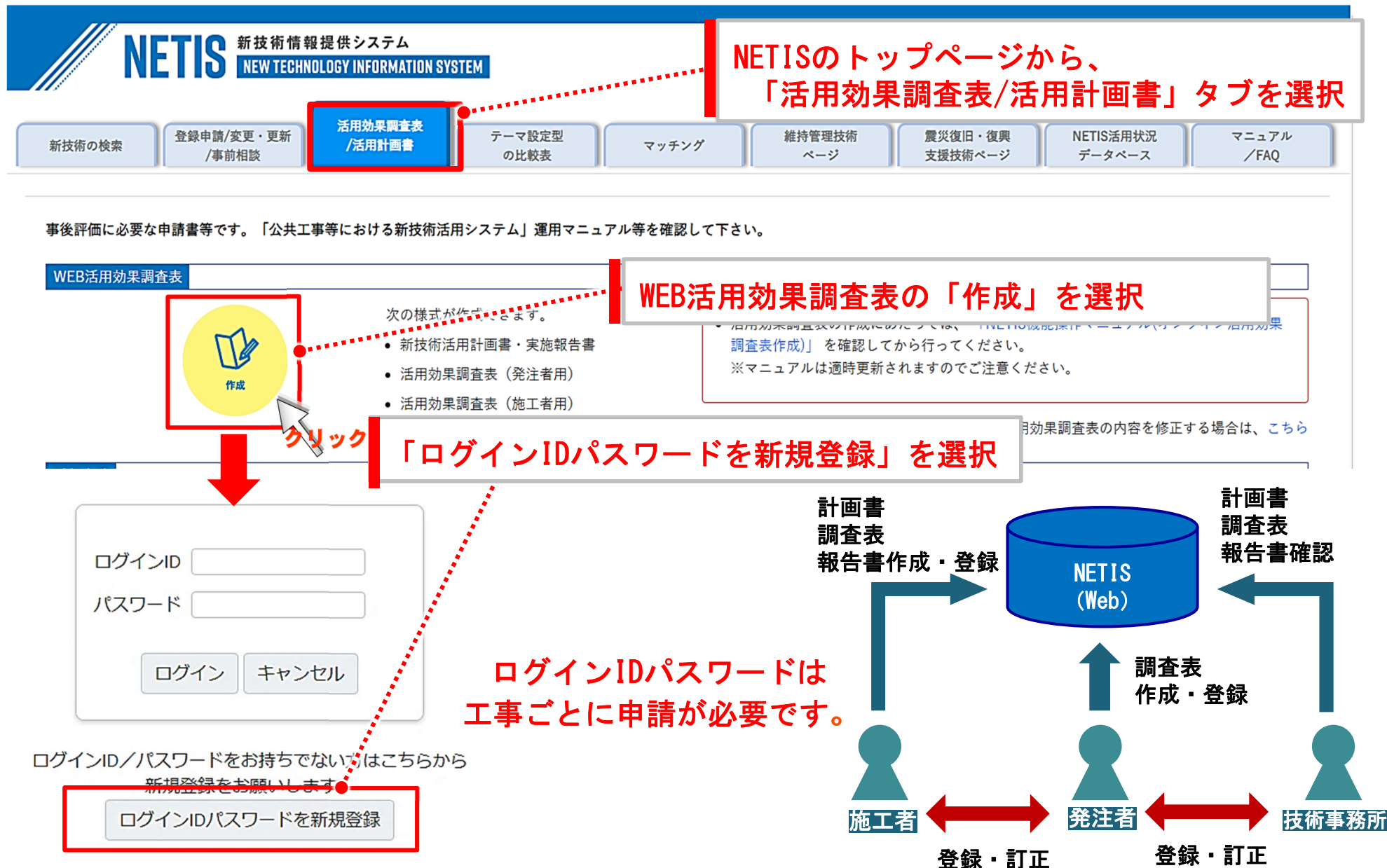


調査表の5件のうち内容に不備があれば評価に使えないことがあります

不備のある
活用効果調査表

調査表が5件に満たないため、評価会議で評価されず、事後評価ができません。

- 新技術活用効果調査表等はNETISのシステムから作成します。



新技術活用計画書・活用効果調査表等の構成

17

- 活用効果調査表は、「新技術活用計画書」、「実施報告書」、「活用効果調査表（発注者用、施工者用）」で構成されています。

活用前に作成

■活用計画書

—VE:活用計画書のみ

—A／—VR:活用計画書・実施報告書・活用効果調査表を作成

活用後に作成

■実施報告書

■活用効果調査表

※システム画面は、一部簡略化しています。

活用計画書

VEの場合は計画書のタブのみ表示されます。

記入完了
下記記載事項が記入完了した後に、記入完了にチェックを入れて、「登録」ボタンを押してください。

新技術の施工期間や活用理由等について記入してください。

実施報告書

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表（施工者用）

新技術の対象数量等の施工概要を記入してください。

活用効果調査表

活用効果調査表（発注者用） 活用効果調査表（施工者用）

従来技術と比較した、新技術の活用の効果を評価し、記入してください。

- 新技術活用計画書は、活用する全ての新技術において、作成が必要です。
新技術活用決定後、速やかに作成し、必ず活用前までに登録してください。
- 実施報告書・活用効果調査表は新技術を活用後、速やかに作成し登録してください。
「-VE」技術は、「実施報告書」「調査表」の作成が不要です。

情報種別記号	計画書	報告書	調査表
「-A」「-VR」	登録	登録	登録
「-VE」	登録	不要	不要

■ **活用が中止**になった場合は**九州技術事務所へ報告**してください！

E-mail : qsr-kyugi-netis@ki.mlit.go.jp

活用効果調査表等作成の実施フロー

19

調査者（施工者）

調査者（発注者）

九州技術事務所

ID・パスワード
の発行

ID・パスワード 申請

1工事毎に申請する

ID・パスワード 受領

通知
(自動メール)

ID・パスワード 申請情報確認

通知
(自動メール)

ID・パスワード 承認、発行

※ID・パスワードは、
発注者からでも申請できます。

【活用前】
計画書

【発注者指定型】

計画書確認・登録

計画書「記入完了」に☑

連絡
(口頭等)

計画書作成・一時保存

「活用等の型」を忘れずに選択

通知
(自動メール)

登録

通知
(自動メール)

記入内容確認

VEの場合

【施工者選定型】

計画書作成・登録

「活用等の型」を忘れずに選択
計画書「記入完了」に☑

通知
(自動メール)

計画書確認

修正あり

修正なし

通知
(自動メール)

修正依頼

登録

通知
(自動メール)

記入内容確認

VEの場合

NETIS登録

【活用後】
実施報告書
活用調査表
(A・VRのみ)

実施報告書、調査表
(施工者用) 作成・登録

実施報告書「記入完了」に☑
調査表「記入完了」に☑

通知
(自動メール)

受注者記入内容確認

修正あり

修正なし

通知
(自動メール)

修正依頼

調査表（発注者用）作成・登録

調査表「記入完了」に☑

通知
(自動メール)

NETIS登録

修正なし

記入内容確認

修正あり

通知
(自動メール)

修正依頼

修正依頼受領

【VEについて】

実施報告書、活用効果調査表の作成・登録は不要です。

- 活用効果調査表作成のID・パスワードは1工事毎に申請が必要です。



NETISのトップページから、
「活用効果調査表/活用計画書」タブを選択

初めてNETISのHPにアクセスした場合、
アンケート画面が表示されます。
該当職種をチェックし、注意事項を確認の上、
同意に関する「OK」ボタンをクリックしてください。

新技術を探す

検索キーワード

登録番号での検索時は、情報種別記号（-A、-VR、-VE）の入力は不要です。

or or

▼キーワード検索条件を追加

AIで技術を検索(質問する内容を入力してENTERキー) 実行運用中

NETIS情報を元にしたAI回答結果ですので、最終的な判断は
ユーザー自身で行ってください。

工種

▼工種検索条件を追加 工種検索条件: ☒ and

有用な新技術の選択

☐ 推奨技術 ☐ 準推奨技術 ☐ 評価促進技術

旧実施要領での技術の位置付け

☐ 活用促進技術(旧) ☐ 設計比較対象技術

新技術に期待する効果で更に絞り込む

☐ 経済性の向上 ☐ 工程の短縮 ☐ 品質の向上

☐ 周辺環境への影響抑制

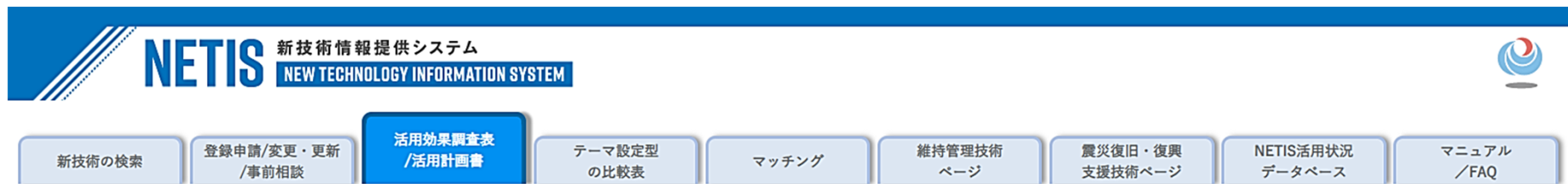
この条件で検索

※チェックボックス条件は、1つも選ばないと絞込なし(全件表示)

[申請されている従来技術名の検索](#)

[試行現場照会一覧](#)

[過去に選定された推奨技術・準推奨技術の一覧](#)



事後評価に必要な申請書等です。「公共工事等における新技術活用システム」運用マニュアル等を確認して下さい。

WEB活用効果調査表



次の様式が作成できます。

- 新技術活用計画書・実施報告書
- 活用効果調査表（発注者用）
- 活用効果調査表（施工者用）

- 活用効果調査表の作成にあたっては、「NETIS機能操作マニュアル(オンライン活用効果調査表作成)」を確認してから行ってください。
※マニュアルは適時更新されますのでご注意ください。

活用効果調査表の内容を修正する場合は、[こちら](#)

試行申請

クリック

WEB活用効果調査表の「作成」を選択

次の様式がダウンロードできます。

ログインID

パスワード

ログイン

キャンセル

ログインID/パスワードをお持ちでない方はこちらから新規登録をお願いします。

ログインIDパスワードを新規登録

「ログインIDパスワードを新規登録」を選択

ID/パスワードの申請方法 3

22

ID/パスワードの申請フォーム

ログインID/PW新規登録フォーム

活用効果調査表/活用計画書の作成・登録に必要なログインID/パスワードを新規発行します。

以下の内容を入力の上送信してください。

■工事/業務情報

設計書番号 2025891111111111

工事情報参照

受注者名 ●●●● (株)

組織機関名 九州地方整備局

部署・事務所名 ●●事務所

発注課 ●●課

工事名/業務名 ●●●●工事

コリンズ/テクリス番号 0123456789

工事期間 2025/04/14 ~ 2026/03/31

工事/業務の種類 工事

調査者（施工者）氏名 ●● ●●

調査者（施工者）メールアドレス xxxxxxxx@co.jp

監督者氏名 ○○ ○○

監督者メールアドレス zzzzzzzz@mlit.go.jp

■調査表/計画書を作成する新技術のNETIS番号

※調査表/計画書を作成する新技術のNETIS番号を1件ずつ入力してください。

※NETIS番号は、情報種別記号「-A」「-VE」等を除く形で入力してください。（例：KT-123456）

※ログインID/PW発行後に調査表/計画書を作成する新技術を追加することも可能です。

技術を追加する

新技術のNETIS番号（1技術目）

QS-24000X

技術活用提案日

⑦クリック

申請

キャンセル

⑦登録フォームの必要事項を入力し「申請」をクリック

①入力

①施工会社等の名称を入力

【注意点】国土交通省は発注者なので間違えて入力しない。

②入力

②正確な情報を入力

【注意点】年度や文字抜けがあります。

③入力

③コリンズ番号は10桁の数字を入力

【注意点】設計書番号ではありません。

④入力

④担当職員と事前に打合せの上で職員氏名とメールアドレスを入力

⑥選択

⑥技術活用提案日

複数の新技術を活用する場合

- 活用技術が複数ある場合は「技術を追加する」ボタンで追加することができます。
- ID/パスワードが発行された後に、技術を追加・削除することも可能です。

■調査表を作成する新技術のNETIS番号

※調査表を作成する新技術のNETIS番号を1件ずつ入力してください。入力いただいたNETIS番号毎に活用効果調査表の入力フォームが発行されます。
※NETIS番号は、情報種別記号「-A」「-VE」等を除く形で入力してください。（例：KT-123456）
※ログインID/PW発行後に調査表を作成する新技術を追加することも可能です。

技術を追加する

新技術のNETIS番号（1技術目）

新技術のNETIS番号（2技術目）

新技術のNETIS番号（3技術目）

技術活用提案日

技術活用提案日

技術活用提案日

削除

削除

追加された技術

技術を追加

ID/パスワード発行のお知らせメール

【NETIS】活用効果調査表/活用計画書入力用（施工者用）ID/PWのお知らせ：●●●●工事

NETIS システム <admin@netis-online.jp>

新技術活用工事
ご担当者様

NETIS 活用効果調査表/活用計画書入力用の ID/PWが発行されましたのでお知らせします。
以下の ID/PW で、活用効果調査表/活用計画書入力用 Web サイトへログインの上、活用効果調査表/活用計画書の入力をお願いします。
※ID/PW はログインに必要となりますので、紛失しないよう保管をお願いします。

【ID/PW】
施工者用 ID np7a5owg PW: aa123456

【新技術活用工事情報】
受注者名 ●●●●（株）
組織機関名 九州地方整備局
部署・事務所名 ●●●●事務所
工事名 ●●●●工事
工事のコーンズ番号 123456789

【調査表/活用計画書を作成する新技術の NETIS 番号】
*QS-240037
*QS-210009

【活用効果調査表/活用計画書入力用 Web サイト（施工者用）】
[活用効果調査表/活用計画書入力用 Web サイトへ](#)

※このメールは送信専用のメールアドレスからお送りしています。
ご返信いただいても回答はできませんので、ご了承ください。

※このメールにお心当たりがない場合は、誠に恐れ入りますが、
破棄していただきますようお願いいたします。

※NETIS への入力内容、その他運用に関するお問い合わせはこちら
<https://www.netis.mlit.go.jp/netis/publink/puboffices>

※システム障害等に関するお問い合わせはこちら
https://www11.webcas.net/form/pub/netis/online_inquiry_form

発信元:NETIS-新技術情報提供システム-
Copyright 2021, New Technology Information System.All Rights Reserved.

発行された
ID/パスワード

入力用サイト
へ移動

発行されたID/パスワードは、すべての登録が完了するまでは必要ですので、紛失しないように管理をお願いします。

※ID・パスワードを紛失した場合は、再発行が必要です。

- ① 施工者が紛失した場合は、発注者に確認
- ② 発注者が紛失した場合は、九州技術事務所 申請・相談窓口を確認

ID/パスワード発行後のログイン

25

ID/パスワードによるログイン

➤ ID・パスワードが発行されると、活用効果調査表等の作成が可能になります。

ログインID

パスワード

ログイン キャンセル

ログインID/パスワードをお持ちでない方はこちらから新規登録をお願いします。

ログインIDパスワードを新規登録

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

ID/パスワードを入力

工事/業務情報

工事/業務情報・連絡先等の変更

活用効果調査表/活用計画書の検索

NETIS番号 この条件で検索

受注者名	●●●●(株)
組織機関名	九州地方整備局
部署・事務所名	●●事務所
工事名	●●●●工事
工事のコリンズ番号	0123456789
反映した設計書番号	

作成したい技術の
「活用効果調査表へ」
をクリック

作成対象の活用効果調査表/活用計画書一覧

1～2件目 / 該当2件 表示件数 10 件

	NETIS番号	技術名	調査表/計画書作成状況※
活用効果調査表/活用計画書へ	QS-24000X	●●●●●●●●工法	施工者作成中
活用効果調査表/活用計画書へ	QS-24000Y	××××工法	施工者作成中

※NETIS番号の末尾記号が「-A」「-VR」となっている技術において、活用計画書のみ登録した場合、調査表/計画書作成状況は「施工者作成中」のままとります。

活用計画書に加え、実施報告書及び活用効果調査表/活用計画書を登録することで調査表/計画書作成状況が「監督者確認中」となります。

クリック

Prev 1 Next

活用する新技術の追加・削除

ID/パスワード発行後に技術を追加・削除することが可能です。

 画面を閉じる
 一時保存
 印刷・プレビュー
 登録

4 計画書を登録

技術活用提案日 2025/05/08

登録番号(技術活用提案日時点) QS-24000X - VE

新技術名称 ●●●●●●●● 工法

比較する従来技術 ●●●●

組織機関名 九州地方整備局

部署・事務所 ●● 事務所

工事名 ●●●●●● 工事

工事/業務の種別 工事

活用等の型

※「活用等の型」の選択にあたっては、下記「新技術活用スキーム実施要領」
[新技術活用スキーム実施要領](#)

登録番号(最新) QS-210009 - VE

}

自動入力

①

「活用等の型」を
リストから選択

☐ 記入完了

※下記項目の記入が完了したら、□記入完了にチェックを入れて、「登録」を押してください。

作成日 ※「新技術活用計画書」の作成日を入力してください

受注者名

契約額(円)

工事期間 ~

新技術施工期間 ~

施工場所

活用理由
 ※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。
 ※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

□経済性

~により、コストを削減することができるため。

□工程

~により、工程を大幅に短縮することができるため。

□品質・出来形

~により、施工精度および品質の確保が図られるため。

□安全性

~により、危険作業の低減が図られるため。

□施工性

~により、作業が容易になり施工性向上が見込まれるため。

□環境

~により、騒音、振動の低減が図られるため。

コメント欄 (確認者のコメント(赤)、申請者のコメント(青))

③すべての入力完了後、「記入完了」をチェック

②「新技術活用計画書」タブの項目を入力

申請者が確認者(申請窓口)に伝えたいことがある場合、または確認者(申請窓口)が申請者へ伝えたいことがある場合は、ここにコメントを入力してください。

図面等のファイルで伝えたい場合は、以下の「ファイルの選択」よりファイルを登録してください。

- ①「活用等の型」を選択
- ②「新技術活用計画書」のタブの入力項目を記入
- ③「記入完了」をチェック
- ④「登録」をクリック

- ・活用した理由をチェックし、コメントを記入します。
- ・6項目のうち、1項目以上の記入が必須となっています。
- ・チェックした項目は**コメント欄を必ず記入**してください。
- ・NETIS申請情報の「**従来技術との比較**」を確認し、**向上するとされている項目**については、必ずチェックし、コメントを記入してください。
- ・従来技術と比べて向上する活用理由を記入してください。

新技術活用計画書の作成 2

27

活用する新技術、発注機関などの記入のポイント

 **NETIS** 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM



新技術の検索

登録申請/変更・更新
/事前相談

活用効果調査表
/活用計画書

テーマ設定型
の比較表

マッチング

維持管理技術
ページ

震災復旧・復興
支援技術ページ

NETIS活用状況
データベース

マニュアル
/FAQ

 画面を閉じる

 一時保存

 印刷・プレビュー

 登録

120分でタイムアウトします。
一時保存を行ってください。

※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」から行えます。

※詳細画面上部の基本項目を変更したい場合は、工事/業務情報画面の「工事/業務情報・連絡先等の変更」ボタンより変更登録をお願いします。

・登録内容に関するお問い合わせは[こちら](#)

・システム操作方法に関するお問い合わせは[こちら](#)

技術活用提案日

2025/05/08



登録番号(技術活用提案日時点)

QS-24000X

-

VE

▼

新技術名称

●●●●●●工法

比較する従来技術

●●●●

組織機関名

九州地方整備局

部署・事務所名

●●●事務所

工事名

●●●●工事

工事/業務の種類

工事

▼

活用等の型

▼

登録番号(最新)

QS-210009

-

VE

NETIS情報から自動的に
入力されます。

新技術を活用する型を選択

※「活用等の型」の選択にあたっては、下記「新技術活用スキーム実施要領」の「3.3.3 活用の実施」及び「3.3.4 活用を促す取組み」を参照して下さい。

[新技術活用スキーム実施要領](#)

※選択ミスが多いので注意！詳細を次ページで紹介

活用等の型の選択のポイント

- 活用等の型は、「**施工者選定型（総合評価技術提案）**（**契約後提案**）」「**発注者指定型**」の場合がほとんどです。間違えないように注意してください。

技術活用提案日	施工者選定型（契約後提案）	活用の型は赤枠が主 施工者選定型（契約後提案） 施工者選定型（総合評価技術提案） 発注者指定型 発注者指定型（選択肢提示型） 試行申請型（発注者指定） 試行申請型（契約後提案） 試行申請型 フィールド提供型 テーマ設定型（技術公募）
登録番号(技術活用提案日時点)	施工者選定型（総合評価技術提案） 発注者指定型	
新技術名称	発注者指定型（選択肢提示型）	
比較する従来技術	試行申請型（発注者指定）	
組織機関名	試行申請型（契約後提案）	
部署・事務所名	試行申請型	
工事名	フィールド提供型	
活用等の型	テーマ設定型（技術公募）	
※新技術活用システム実施要領で定められたNETIS技術を活用するシステム 新技術活用システム実施要領		
登録番号(最新)	- A ▼	

間違いやすいので注意！！

工事等の情報の記入のポイント

新技術活用計画書

実施報告書

活用効果調査表（施工者用）

☐ 記入完了

※下記項目の記入が完了したら、☐記入完了にチェックを入れて、「登録」ボタンを押してください。

作成日 **①選択** ※「新技術活用計画書」の作成日を入力してください

受注者名 ●●●●（株）

契約額(円) **②入力**

工事期間 2025/04/18 ~ 2026/03/31 **③選択**

新技術施工期間 **④選択**

施工場所 例) ○○県○○市○○地先（住所でも可） **⑤入力**

活用理由 ※当該技術を活用した理由を当てはまる項目について記入してください。
（必ず一つはチェックが必要です。）
※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。
※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

☐ 経済性 ~により、コストを削減することができるため。

☐ 工程 ~により、工程を大幅に短縮することができるため。

☐ 品質・出来形 ~により、施工精度および品質の確保が図れるため。

☐ 安全性 ~により、危険作業の低減が図られるため。

☐ 施工性 ~により、作業が容易になり施工性向上が見込まれるため。

☐ 環境 ~により、騒音、振動の低減が図られるため。

☐ その他（ ）

☐ その他（ ）

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

①計画書の作成した日をボタンより選択
②工事（業務）の当初契約額（税込）を入力
③工事（業務）の全体工期をボタンより選択
④全体工期のうち新技術を活用する期間をボタンより選択
⑤施工場所の所在地を記入

※工事期間、新技術施工期間は、施工完了後に正確な日付けに修正をお願いします。

申請者が確認者（申請窓口）に伝えたいことがある場合、または確認者（申請窓口）が申請者へ伝えたいことがある場合は、ここにコメントを入力してください。
図面等のファイルで伝えたい場合は、以下の「ファイルの選択」よりファイルを登録してください。

ファイルの選択 ファイルが選択されていません

活用理由の記入のポイント

- NETISの従来技術と比較して、新技術が優れていると思われる項目についてはチェック☑を選択。
- チェックした項目は、コメント欄に必ず記入してください。
- 6項目中、必ず1項目以上の記入が必須です。
- 6項目以外で活用理由がある場合は、「その他」に記入してください。

比較する従来技術が適切でない場合

NETIS掲載の「比較する従来技術」との比較が不適切と考えられる場合でも、記載された技術との比較を行ってください。

活用理由 ※当該技術を活用した理由を当てはまる項目について記入してください。
(必ず一つはチェックが必要です。)

※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。

※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

☒ 経済性	●●により、コストを削減することができるため。
☐ 工程	～により、工程を大幅に短縮することができるため。
☐ 品質・出来形	～により、施工精度および品質の確保が図れるため。
☒ 安全性	●●により、安全性が向上したため。
☐ 施工性	～により、作業が容易になり施工性向上が見込まれるため。
☐ 環境	
☐ その他 ()	
☐ その他 ()	

チェックしたらコメントの記入

NETIS申請情報

概要	従来技術との比較	特許・審査証明	単価・施工方法	問合せ先・その他	詳細説明資料
活用の効果					
比較する従来技術 ●●●●●●					
項目	活用の効果			比較の根拠	
経済性	向上	同程度	低下 (-11.16%)	従来技術と比較して、GNSSシステム初期費用等が加算されるため低下	
工程	短縮	同程度 (0%)	増加		
品質	向上	同程度	低下		
安全性	向上	同程度	低下		
施工性	向上	同程度	低下	従来技術と比較して、ICT施工による省力化によって施工効率が向上し、出来形管理資料作成が効率化される	
周辺環境への影響	向上	同程度	低下		
	向上	同程度	低下		
	向上	同程度	低下		
その他、技術の ICT対応の地盤改良機を用いることにより、施工位置の情報を従来の測量による明示からGNSSを活用した自動計測とすることで効率化が可能であり、データによる施工記録が可能である。					
コストタイプ 並行型：B(-)型					

NETISの申請情報には開発者の活用効果が記載されていますので、参考資料としてご覧ください。
活用理由に記載する優れている効果は、今回の現場で活用した施工者の意見を記入してください。

実施報告書の作成 1

31

実施報告書作成の流れ

- 「-A」 「-VR」 技術は新技術活用後、実施報告書及び活用効果調査表の作成・登録が必要です。
(VE技術は不要)



【実施報告書】

①「実施報告書」
タブの項目を入力

②入力完了後、
「記入完了」をチェック

工事全体の内容を記入してください。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

対象数量 全角127文字以内。

新技術の対象数量を記入してください。

例) 掘削工2,000m³

単位は、NETIS 掲載情報「活用効果の根拠」に合わせてください。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

新技術使用箇所 全角127文字以内。

例) 掘削工

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

施工(活用)概要資料 ※活用概要データを添付し

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルを選択 選択されていません

・構造が分かる図面などがあれば添付してください。
※NETIS情報等の添付は必要ありません。

実施報告書

①「実施報告書」のタブの入力項目を記入

②「記入完了」をチェック

【実施報告書】 つづき

現場施工条件 各全角1000文字以内。

●現場条件

例) 回収部分のN値は、2～1.3程度。川裏側に一部砕石があり、先行除去作業が必要であった。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

●周辺状況(病院、学校、鉄塔の有無等)

例) 改良部より川裏側(L=6.0m付近)に電力会社の鉄塔あり

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

●自然環境(騒音、振動、水質等)

例) 今回施工した改良部では、地下水、湧水への影響はない。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

障害 施工上で重大な障害や問題が生じましたか。

○無 ○有 チェックを外す

障害の内容 全角127文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

作業環境 ○陸上作業 ○水上作業 ○地下作業 ○水中作業 ○高所作業 チェックを外す

施工概要の記入のポイント

実施報告書は新技術活用後に記入してください。

①内容

新技術を活用した**工事の概要**を記入

②対象数量

新技術の工種の数量を記入
(単位は、NETIS掲載情報に合わせる)

③新技術使用箇所

対象数量のうち、新技術を使用した箇所を記入

④現場施工条件

新技術を活用した現場条件を記入
(騒音有無や夜間施工等)

⑤障害

施工上での重大な障害・問題の有無を選択
「有」の場合は、障害の内容を記入

⑥作業環境

新技術を活用した作業環境を選択

The screenshot shows the NETIS reporting form with the following sections and annotations:

- 1 工事概要**: Example input: 舗装工7,000m²、道路改良L=1,000m. Annotation: 工種（業務）全体の内容が分かるよう、主要工種のみ記入 (Enter only the main work types so the overall content of the work type (business) is understandable).
- 2 対象数量**: Example input: △△橋橋梁塗装工3,000m²、足場工1,500m².
- 3 新技術使用箇所**: Example input: △△橋P3橋脚 足場工1,000m². Annotation: 必須項目ではないため、特に資料を添付する必要はありません (Not a mandatory item, so there is no need to attach documents).
- 4 現場施工条件**: Example input: 山間部. Annotations: 半径50m以内に学校あり (There is a school within 50m radius), 特になし (None).
- 5 障害**: Example input: 施工上で重大な障害や問題が生じました。 (A major problem or problem occurred during construction). Annotation: 特筆することがない場合、「特になし」と記載してください。 (If there is nothing remarkable, please enter "None").
- 6 作業環境**: Example input: 陸上作業. Annotation: クリックして選択してください。 (Click to select).

活用効果調査表の作成 1

33

新技術活用計画書 実施報告書 **活用効果調査表（施工者用）** クリック

□ 記入完了

※下記項目の記入が完了したら、□記入完了にチェックを入れて、「登録」ボタンを押してください。

調査表の全ての項目の記入が完了したら、「記入完了」にチェックしてください。

記入要領

- 全ての調査項目について調査を行ってください。
ただし、記入者が評価に関係ないと判断した調査項目があれば「当該技術に関連しない項目である」にチェックして下さい。
その場合は、当該調査項目の評価は必要ありません。また、コメント欄にその理由を必ず記入して下さい。
- 調査項目毎に評価点をチェックして下さい（チェックの目安は下表の通り）。

大幅に劣る	劣る	同等	優れる	大幅に優れる
1	2	3	4	5

左記のチェックの目安を参考に定性的5段階評価をお願いします。

【ポイント】
活用した新技術が、従来技術に比べて「優れる」か「同等」か「劣る」かを判断してから、どの程度優れているのか、どの程度劣っているのかを上表を目安に判断していただくことで、チェックしやすくなります。
- 調査項目の追加が必要な場合はその他（自由設定）欄に記入して下さい。
- 調査項目毎に「優れていた点」「劣っていた点」をチェックして下さい（複数チェックすることも可能です）。
チェックを入れた場合はその補足説明をコメント欄に記入して下さい。また、チェックを入れなかった場合についても、その理由をコメント欄に記入して下さい。
- コメント欄には、**効果調査（5段階評価チェック）の理由を必ず記入して下さい。**
また、当該技術を活用及び活用検討する上での**留意事項**等を記入して下さい。
記入内容は、効果調査の理由や評価の視点でチェックした内容と必ず整合を図ってください。
必要に応じて定量的なコメントをお願いします。

会社名(所属)
記入者氏名
連絡先 (TEL)

経済性	効果調査					優れていた点		
	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる	○1	○2		○3	○4
コメント 全角1000文字以内。								
読字チェック 凡例： チェック対象文字、修正候補 読字・読字チェックの結果をここに表示します								

【経済性の評価】

・定性的5段階評価をお願いします。

・コメントは必ず記入してください。

工程	効果調査					優れていた点		
	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる	○1	○2		○3	○4
コメント 全角1000文字以内。								
読字チェック 凡例： チェック対象文字、修正候補 読字・読字チェックの結果をここに表示します								

【工程の評価】

・定性的5段階評価をお願いします。

・コメントは必ず記入してください。

品質・出来形	効果調査					優れていた点		
	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる	○1	○2		○3	○4
コメント 全角1000文字以内。								
読字チェック 凡例： チェック対象文字、修正候補 読字・読字チェックの結果をここに表示します								

【品質・出来形の評価】

・定性的5段階評価をお願いします。

・コメントは必ず記入してください。

安全性	効果調査					優れていた点		
	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる	○1	○2		○3	○4
コメント 全角1000文字以内。								
読字チェック 凡例： チェック対象文字、修正候補 読字・読字チェックの結果をここに表示します								

【安全性の評価】

・定性的5段階評価をお願いします。

・コメントは必ず記入してください。

施工性	効果調査					優れていた点		
	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる	○1	○2		○3	○4
コメント 全角1000文字以内。								
読字チェック 凡例： チェック対象文字、修正候補 読字・読字チェックの結果をここに表示します								

【施工性の評価】

・定性的5段階評価をお願いします。

・コメントは必ず記入してください。

活用効果調査表の作成 2

34

環境	効果調査	優れていた点						
	<table><tr><td>従来技術より劣る</td><td>同等</td><td>従来技術より優れる</td></tr><tr><td>○1</td><td>○2</td><td>○3 ○4 ○5</td></tr></table>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる	○1	○2	○3 ○4 ○5	- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少したため - 騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため - 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため - 産業廃棄物の発生量が減少したため(リサイクル性が向上したため) - 省エネルギー・省資源化が向上したため
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる						
○1	○2	○3 ○4 ○5						
	コメント 全角1000文字以内。	劣っていた点						
		- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が悪化したため - 騒音・振動・粉塵等作業環境が悪化したため - 周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため - 産業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル性が低下したため) - 省エネルギー・省資源が低下したため						
	誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補							
	誤字・脱字チェックの結果をここに表示します							

上記項目の他に評価事項がある場合は本項目にて評価を行ってください。優れていた点、劣っていた点はコメント欄へ具体的に記載して下さい。

その他	タイトル 全角20文字以内。						
	効果調査						
	<table><tr><td>従来技術より劣る</td><td>同等</td><td>従来技術より優れる</td></tr><tr><td>○1</td><td>○2</td><td>○3 ○4 ○5</td></tr></table>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる	○1	○2	○3 ○4 ○5
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
○1	○2	○3 ○4 ○5					
	コメント 全角1000文字以内。						
	誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補						
	誤字・脱字チェックの結果をここに表示します						

その他	タイトル 全角20文字以内。						
	効果調査						
	<table><tr><td>従来技術より劣る</td><td>同等</td><td>従来技術より優れる</td></tr><tr><td>○1</td><td>○2</td><td>○3 ○4 ○5</td></tr></table>	従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる	○1	○2	○3 ○4 ○5
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる					
○1	○2	○3 ○4 ○5					
	コメント 全角1000文字以内。						
	誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補						
	誤字・脱字チェックの結果をここに表示します						

【環境の評価】

- ・ 定性的 5段階評価をお願いします。
- ・ コメントは必ず記入してください。

【その他】

前述の6項目以外で新たな「調査項目」が必要と記入者が判断した場合は、その他の項目に記入してください

総合的所見	NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたか
	優れていた所 全角1000文字以内。
	誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補
	誤字・脱字チェックの結果をここに表示します
	劣っていた所 全角1000文字以内。
	誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補
	誤字・脱字チェックの結果をここに表示します
	留置する所 全角1000文字以内。
	誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補
	誤字・脱字チェックの結果をここに表示します
	当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか
	☐ 適切であった ☐ 適切でなかった
	適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術者を記入して下さい 全角127文字以内。
	今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか
	☐ 今後も是非活用したい ☐ 活用を検討したい ☐ 場合によっては活用することもある ☐ 技術の改良を強く望む
	理由 全角127文字以内。
	誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補
	誤字・脱字チェックの結果をここに表示します
	当該技術について改良点・要望・その他意見ありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内。
	誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補
	誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

【総合的所見】

- ・ コメントは必ず記入してください。

施工状況等の写真 ※写真ファイルには、サイズ300×300画素のGIF形式またはJPEG形式の画像ファイルを選択してください。

写真1	写真2	写真3
ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または [ファイルを選択] 選択されていません	ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または [ファイルを選択] 選択されていません	ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または [ファイルを選択] 選択されていません
画像読み専用: ※画像サイズは1600画素までのものとしてください。	画像読み専用: ※画像サイズは1600画素までのものとしてください。	画像読み専用: ※画像サイズは1600画素までのものとしてください。

【施工状況等の写真】

新技術に活用状況が分かる写真（施工状況、使用材料、計測状況、完了等）を添付してください。

写真のタイトルを記入してください。

☑ 記入完了 ※「活用効果調査表（施工者用）」の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

会社名(所属)

記入者氏名

連絡先 (TEL)

該当する項目をチェック

コメント欄（確認者のコメント（赤）、申請者のコメント（青））

経済性

① 効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○ 1	○ 2	○ 3
		◎ 4
		○ 5

③ コメント 全角1000文字以内。

（例）
ベースマシンがバックホウタイプで小型であることから、機械経費・人件費が安価となり、仮設足場材（敷鉄板）に要する費用が減少し、施工日数が短縮できたという理由で非常に優れている。

②

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☒ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☐ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

監督職員とテキストでやりとりする場合に使用

コメントを入力してください

比較する従来技術と比べて判断し、優劣などの5段階評価を必ず、クリックして選択

所見として、
【効果調査】、【優れていた点】あるいは【劣っていた点】の理由を必ず記入。

活用効果調査表

評価項目のチェックポイント

- ①効果調査（優れる、同等、劣る）
- ②優れていた点、劣っていた点
- ③①②とした理由のコメント

【活用効果調査表】の総合的所見との記載
【活用計画書】の活用理由の記載

整合は取れているか？

【活用効果調査表】

経済性

効果調査				
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	● 5

コメント 全角1000文字以内。

従来技術より軽量の為、1日当たりの施工量が減少することにより、機械経費及び人件費の削減が図れ、施工日数も短縮できたため、経済性は優れている。

優れていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- 作業人員が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため
- 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- 作業人員が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数量より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

※コメントは必ず記入してください。

【コメント】

効果調査の理由を必ず記入してください。
効果調査の理由や評価の視点との整合を図ってください。

【効果調査】

「5段階」で必ず評価してください。

工程

効果調査				
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○ 1	● 2	○ 3	○ 4	○ 5

コメント 全角1000文字以内。

施工性の向上により敷設に要する日数が従来技術よりも短縮したため、工程は優れている。

優れていた点

- 施工日数が短縮したため
- 工程計画が組みやすかったため
- 予定工程どおりに進捗したため
- 施工性が向上したため
- 仮設が減少したため
- 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 施工日数が延長したため
- 工程計画が組みづらかったため
- 予定工程どおりに進捗しなかったため
- 施工性が劣るため
- 仮設が増加したため
- 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

「優れていた点」「劣っていた点」に該当する項目があれば
チェックしてください。

【不整合例】：効果調査と項目チェックとコメントの不整合
効果調査、劣る「2」にチェックしている。
優れていた点の2か所の項目にチェックしている。
コメントは「優れている」と記載している。

評価項目の記入のポイント

活用効果調査表は受注者の作成後、発注者は、記入内容を確認し、発注者用を作成してください。

- 『比較する従来技術』と比較して評価する。
- 6項目（経済性・工程・品質・安全性・施工性・周辺環境への影響）について、必ず評価する。

①効果調査

比較する従来技術と比べて判断し、優劣などの「5段階評価」を必ずチェック

②調査の視点

該当する項目がない場合、近い内容をチェック
「優れていた点・劣っていた点」に該当する項目場合は、がなかったことも記載
※コメントにおいて、優れている点や劣っている点を具体的に記載。

③コメント

所見として、コメント（評価の理由）は評価にかかわらず必ず記入

① 効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	◎ 4	○ 5

② 調査の視点

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☒ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☐ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

③ コメント 全角1000文字以内。

(例)
ベースマシンがバックホウタイプで小型であることから、機械経費・人件費が安価となり、仮設足場材（敷鉄板）に要する費用が減少し、施工日数が短縮できたという理由で非常に優れている。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字

修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

記入漏れや評価に矛盾がないよう発注者は必ずチェックしてください。

また、施工者の評価と発注者の評価が大きく異なることがないよう評価に当たっては施工者と発注者の間で十分調整を図ってください。

不整合の例

効果調査は「5」（優れる）にチェックされているが、
調査の視点で「劣っていた点」の項目にチェックされている。
コメントは「劣っていた」との理由が記載されていることから、不整合である。

【活用効果調査表】

経済性

効果調査					調査の視点
「5（優れる）」にチェック					優れていた点
従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる		☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	● 5	☐ 作業人員が減少したため
					☐ 仮設費が減少したため
					☐ 施工日数が短縮したため
					☐ 施工量が想定数量より多かったため
					☐ 維持管理費の減少が見込まれるため
コメント 全角1000文字以内。					劣っていた点
製品単価が効果であるため経済性は劣っていた。					☒ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
					☐ 作業人員が増加したため
					☐ 仮設費が増加したため
					☐ 施工日数が延長したため
					☐ 施工量が想定数量より少なかったため
					☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

不整合

不整合

経済性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☒ 5

コメント 全角1000文字以内。

経済性は、ベースマシンがバックホウタイプで小型であることから、機械経費・人件費が安価となり、仮設足場材（敷鉄板）に要する費用が減少し、施工日数が短縮できたという理由で非常に優れている。

(全体的に優れている点をコメント)

優れていた点

- ☒ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☒ 作業人員が減少したため
- ☒ 仮設費が減少したため
- ☒ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

優れた点が多く評価が「5」の例

工程

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☒ 5

コメント 全角1000文字以内。

工程は、地盤改良に要する日数が、当初8日間を予定していた日程が4日間（1/2）になり、施工日数を短縮できるという理由で非常に優れていた。

(1項目がいかに優れていたかを具体的にコメント)

優れていた点

- ☒ 施工日数が短縮したため
- ☐ 工程計画が組みやすかったため
- ☐ 予定工程どおりに進捗したため
- ☐ 施工性が向上したため
- ☐ 仮設が減少したため
- ☐ 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 工程計画が組みやすかったため
- ☐ 予定工程どおりに進捗しなかったため
- ☐ 施工性が劣るため
- ☐ 仮設が増加したため
- ☐ 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

優れた点は1項目だが評価が「5」の例

- コメントは、評価に至った理由である を具体的に記入し、文末は、下記の文例を参考にしてください。

効果調査が「5」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、

.....

という理由で

非常に優れている。
極めて向上した。
大幅に〇〇を削減できた。
特に〇〇が高い。
〇〇及び△△が非常に減少した。
〇〇が大幅に減少した。

効果調査が「4」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、

.....

という理由で

優れている。
向上した。
やや優れている。
少し向上した。
僅かに〇〇を削減できた。
〇〇がやや減少した。

効果調査が「3（同等）」の場合

経済性
工程
品質・出来形
安全性
施工性
環境

は、

.....

という理由で

同程度である。
変わらない。
ほぼ同等と考える。
影響が無かった。
問題はない。
大差はない。

- コメントは、評価に至った理由である を具体的に記入し、文末は、下記の文例を参考にしてください。

効果調査が「2」の場合

経済性
 工程
 品質・出来形
 安全性
 施工性
 環境

は、..... という理由で

劣る。
 低下した。
 やや劣る。
 少し低下した。
 僅かに〇〇が増加した。
 〇〇がやや増加した。

効果調査が「1」の場合

経済性
 工程
 品質・出来形
 安全性
 施工性
 環境

は、..... という理由で

非常に劣る。
 極めて低下した。
 大幅に〇〇が増加した。
 特に〇〇が低い。
 〇〇及び△△が非常に増加した。
 〇〇が大幅に増加した。

『調査項目のコメント』を特に重視すべき具体的な事例

42

➤ 以下のような事例では、**修正依頼**や**ヒアリング**をお願いする場合があります。

調査の視点では、（優れていた点：2）＞（劣っていた点：1）であるが、効果調査は「2」でありコメントもマイナス評価となっている。

経済性

効果調査		従来技術より優れる		
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○1	●2	○3	○4	○5

コメント 全角1000文字以内。

「2」 2箇所

機械経費が高いため経済性は劣る。(×)

より具体的に

1箇所

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☒ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☒ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

コメントが簡素であるために、調査の視点の重みが判断できません。より具体的なコメントをお願いします。

例：作業人員と施工日数は削減できたものの、機械経費が非常に高くなったため、総合的には従来技術と比較して、経済性は劣る。(○)

調査の視点では、優れていた点に多く（4箇所）のチェックが付いているが、効果調査は「4」となっている

施工性

効果調査		従来技術より優れる		
従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる		
○1	○2	○3	●4	○5

コメント 全角1000文字以内。

「4」 4箇所

施工性は向上している。(×)

より具体的に

優れていた点

- ☒ 現場での施工が減少したため
- ☒ 仮設工が減少したため
- ☒ 作業員の作業が容易になったため
- ☐ 熟練度に依存した作業が減少したため
- ☒ 施工の機械化が向上したため
- ☐ 施工時の制約条件が減少したため

劣っていた点

- ☐ 現場での施工が増加したため
- ☐ 仮設工が増加したため
- ☐ 作業員の手間が増えたため
- ☐ 熟練度に依存した作業が増加したため
- ☐ 施工の機械化が低下したため
- ☐ 施工時の制約条件が増加したため

多くの項目で優れているが、それぞれの項目の重みは僅かであるために、総合的には「4」となったことが伝わるようなコメントをお願いします。

例：仮設の減少により現場での施工が減少し、さらに機械化により作業員の作業が容易になったことから、従来技術と比較して施工性はやや優れている。(○)

- 活用効果調査にあたっては、NETIS申請情報「活用の効果」の内容を確認し、技術特性を十分理解し、適切な評価となるよう留意してください。
- 活用効果調査表の評価は、NETIS記載の従来技術と比較してください。

■調査表記載にあたっての主な留意点

経済性：新技術の導入コストだけでなく、工期短縮などに伴う、人件費、管理費、仮設費用などのコスト含めて総合的な観点から評価をお願いします。

工 程：技術導入による施工期間での評価をお願いします。

品質・出来形：施工性の視点（現場での施工や作業が容易など）での評価ではなく、目的物の品質や出来形が向上する視点（耐久性向上・現場での管理項目など）での評価としてください。

安全性：今回の現場施工中による効果での評価をお願いします。
施工後の新技術の導入効果は評価しないようお願いします。

従来技術と比較して影響を与えない、変化がない場合の評価は「同等（3点）」の評価となります。

総合的所見の記入のポイント

新技術活用後に記入してください。

①優れていた所

従来技術と比較して、優れていた点を記入

②劣っていた所

従来技術と比較して、劣っていた点を記入

③留意する所

新技術を活用する際に、特に留意すべき点を記入

④アンケート項目

該当する項目を選択し、回答。

⑤従来技術名

比較する従来技術が適切でなかった場合、
比較すべき従来技術を記入

⑥今後の当該技術活用の理由

該当する項目を選択し、「理由」も必ず記入

⑦改善点・要望・その他

改善点等がある場合は、自由に記入。

⑧施工状況等の写真

施工者が作成します。発注者による作成は不要です。
写真ファイルは、2MB（300×200pixel）程度のGIF形式またはJPEG形式としてください。

総合的所見

NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたか

① 優れていた所 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

② 劣っていた所 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

③ 留意する所 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

④ 当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

☐ 適切であった ☐ 適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

⑤

⑥ 今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

☐ 今後もし是非活用したい ☐ 活用を検討したい ☐ 場合によっては活用することもある ☐ 技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

⑦ 当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

施工状況等の写真 ※写真ファイルには、サイズ300×200程度のGIF形式またはJPEG形式の画像ファイルを指定してください。

⑧

写真1

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

写真2

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

写真3

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

➤ 活用効果調査表等は、発注者と施工者がNETISシステム上で作成します。

■新技術活用計画書

- ・「計画書」は、活用する全ての新技術において、作成が必要です。
新技術活用決定後速やかに作成し、必ず**活用前**までに登録してください。

■実施報告書・活用効果調査表

- ・「実施報告書」「調査表」は新技術を**活用後**、速やかに作成し登録してください。
- ・「-VE」技術は、「実施報告書」「調査表」の**作成は不要**です。

■活用が中止になった場合は、システムから削除のうえ、九州技術事務所に報告してください！
E-mail : qsr-kyugi-netis@ki.ml.it.go.jp

【VE技術】

【活用前】

■計画書

施工者
計画書作成・登録

調査表/計画書作成状況
施工者作成中

監督員へ
内容確認メール送信

発注者
内容確認・登録

調査表/計画書作成状況
監督職員確認中

技術事務所
内容確認・登録

調査表/計画書作成状況
確認者確認中

登録済み

調査表/計画書作成状況
公開済

【A/VR技術】

【活用前】

■計画書

施工者
計画書作成・登録

調査表/計画書作成状況
施工者作成中

監督員へ
内容確認メールは
送信されません

【活用後】

■実施報告書・活用効果調査表

施工者
実施報告書・調査表作成
登録

調査表/計画書作成状況
施工者作成中

監督員へ
内容確認メール送信

発注者
内容確認・調査表作成
登録

調査表/計画書作成状況
監督職員確認中

技術事務所
内容確認・登録

調査表/計画書作成状況
確認者確認中

1. NETISの原則義務化

- ・直轄工事においては、**原則1技術以上の新技術**を活用しなければならない。

2. ID、パスワードの申請

- ・活用効果調査表作成の**IDとパスワードは1工事毎**に申請が必要です。紛失しないよう保管を！

3. 新技術活用計画書、実施報告書および活用効果調査表の作成について

3-1. 保存について

- ・**120分でタイムアウト**するため一時保存を行ってください。

3-2. 計画書の作成について（活用前）

- ・**活用等の型**を忘れずに選択してください。
- ・計画書を作成し、**「記入完了」に☑して登録**してください。

3-3. 「A」「VR」技術について（活用後）

- ・実施報告書を作成し**「記入完了」に☑**してください。
- ・活用効果調査表は、評価項目6項目は必ず「5段階評価」を行い、すべての項目のコメントを記入してください。
- ・活用効果調査表を作成し**「記入完了」に☑して登録**してください。

3-4. 「VE」技術について（活用後）

- ・**実施報告書、活用効果調査表の作成・登録は不要**です。

※活用効果調査表等は登録完了後は修正できないので、よく確認して登録してください。

九州技術事務所HPの「新技術情報/NETIS」に調査表等の作成に関する情報を掲載しています。

九州技術事務所ホームページ

<http://www.qsr.mlit.go.jp/kyugi/>



新技術情報／NETIS

こちらをクリック！



活用（活用計画書・報告書および活用効果調査表）

NETIS（新技術情報提供システム）とは？

NETISは、国土交通省が運営する新技術の情報共有システムです。直轄工事や業務における新技術の活用を促進し、コスト削減や工期短縮などとしています。

九州技術事務所では、NETISの登録や活用調査表の作成や工法比較支援、活用促進に向けた説明会等に取り組んでいます。

NETIS新規登録/変更・更新（開発される方）	NETIS活用調査表等作成（工事、業務で活用される方）
工法比較表データベース（設計業務される方）	参考資料（マニュアル等）
イベント・説明会	技術の紹介

こちらをクリック！

新技術活用効果調査表のコメント事例集
操作マニュアル

ホーム / NETIS NETIS活用調査表等作成（工事、業務で活用される方）

国土交通省発注工事の施工者、発注者向けページです。

直轄工事にてNETISを活用した場合、活用した技術をNETISに登録が必要です。

また、活用する技術（A・VR・VE）によって作成する内容（活用計画書・実施報告書・活用効果調査表）が異なりますので以下の内容を確認のうえ、作成してください。

NETIS登録技術活用の流れについて

- 新技術活用の流れ >> NETIS活用ガイドブック（4ページ）をご参照ください

「活用調査表等」の作成について

- 活用効果調査表作成の実施フロー・作成手順 >> NETIS活用ガイドブック（29～42ページ）をご参照ください
- 工事・業務で提出する活用計画書・実施報告書・活用効果調査表の作成はこちらから【外部サイトへ】

活用効果調査表のコメント事例集

- 作成にあたっては、下記、作成の手引きとコメント事例集をご確認ください。

新技術『活用効果調査表』作成の手引きとコメント事例集

※活用効果調査表作成にあたっては、操作マニュアルを確認してから行ってください。

- 操作マニュアル【外部サイト】

よくある質問 >> NETIS活用ガイドブック（43～46ページ）をご参照ください

NETISに関するお問い合わせ

九州技術事務所
技術活用・人材育成課
メールアドレス：qsr-kyugi-netis@ki.mlit.go.jp

コメント事例集

操作マニュアル

参考資料

1. NETIS情報の検索と閲覧
2. 活用効果調査表等の作成
3. 工法比較表データベースシステム
4. 九州地整管内の活用件数の多い技術

工法比較表データベースは、一次選定をサポートするツールです。工法の条件検索の機能があり、技術毎の施工費、施工日数及び各種試験データ等を調査し、工法選定に必要な情報を補完しています。

①検索条件の設定(現場の仕様、要件、現場条件の整理)

- ①対象技術: 深層混合処理工 スラリー(セメントミルク)攪拌
- ②対象箇所: 砂質土(最大N値10)、施工ヤードは狭隘(小型ベースマシンの使用)
- ③目的: 改良杭(単軸、改良径φ1200mm、改良深度15.5m)434本



②『工法比較表検索条件入力シート<一次選定サポート用>』に該当する条件を選択

工法比較表の出力

工法比較表DBにて
該当条件抽出
(一次選定サポート)

③工法比較表出力結果を検討

(現場毎の要件の重み付けやその他の要素を考慮した比較表を作成)

<重み付けの例>

- ①基準類の規格値に対する効果の度合
- ②技術特性 [例)耐久性、施工性、施工方式等]
- ③経済性
- ④工程

等

設計業務にて
工法選定
(二次選定)



④最終的な工法を選定

設定した現場条件にて、工法比較表データベースの検索条件入力シートの「キーワード」をチェックし、現場の条件に適応した効果的な検索が可能です。

借用同意書

Ver. 5.85

更新履歴

深層混合処理工(機械攪拌工法)工法比較表検索条件入力シート<一次選定サポート用>

本システムは、毎月NETIS情報を確認し、追加があれば更新してまいりますので、最新版を入手してお使いください。

令和8年1月現在

現場条件

いずれか選択

☒ 特に指定しない

☐ 陸上施工

☐ 水上施工※

※水上施工を選択した場合、「発注者ニーズの適応性」以外の選択は無効となります。

施工機械

いずれか選択

☐ 特に指定しない

☒ 単軸

☐ 二軸以上

土質

いずれか選択

☐ 粘性土

☒ 砂質土

改良径φ(mm)

いずれか選択

☐ 特に指定しない

☒ φ≤1200

☐ φ>1200

改良長L(m)

いずれか選択

☐ 0<L≤10

☒ 10<L

九州フィールドへの適応性
(九州地方整備局内での実績)

いずれか選択

☒ 特に指定しない

☐ 有

☐ 無

発注者ニーズへの適応性

いずれか選択

☐ 従来技術と比較して優れている技術

※チェックを入れたすべての項目が「優れている」の場合

☒ 従来技術と比較して同等以上の技術

※チェックを入れたすべての項目が「同等以上」の場合

複数選択

☐ 周辺地盤への変位抑制

☐ 騒音・振動の低減

☐ 粉塵等の飛散防止

☐ リサイクル性の向上

☒ 狭隘な現場での施工性

☐ 軟弱地盤上での施工性(トラフカビリティ)

☐ 省人化・省力化

検索結果:全29技術195仕様の内、13技術13仕様が検索されました。

【簡易版】検索結果を表示

【詳細版】検索結果を表示

- 【調査するキーワード】
- ▶現場条件
 - ▶施工機械
 - ▶土質
 - ▶改良径φ(mm)
 - ▶改良長L(m)
 - ▶九州のフィールドへの適応性
 - ▶発注者ニーズへの適応性



現場条件に適応したキーワードに
チェックマーク

- 【キーワード抽出事例】
- ▶現場条件:特に指定しない
 - ▶施工機械:単軸
 - ▶土質:砂質土
 - ▶改良径φ:φ≤1200
 - ▶改良長L:10<L
 - ▶九州のフィールドへの適応性:特に指定しない
 - ▶発注者ニーズへの適応性:従来と比較して同等以上の技術
狭隘な現場での施工性

→従来技術を統一することで工法の比較が容易に実施

・検索結果の順は、①②③で表示。各項目内では、登録年次が古い順に表示

①九州の技術

②事後評価済技術、有用な新技術、事後評価未実施技術

③NETIS掲載期間終了技術

Click:簡易版の表示可能

注)土木工事標準積算基準書
(共通編)に記載しているスラ
リー攪拌工である。

②①～②③

ワーキンググループからのコメント
(技術の特徴等について)

■NETIS申請情報

NETISの申請情報から必要な情報（技術名、登録番号、有用な技術等）を抜粋したもので、補完調査で得た情報も追記しています。

技術の定義

- ・事後評価済技術： 情報種別がVR、VE
- ・有用な新技術： 有用な新技術に該当する技術（期限切れを除く）
- ・事後評価未実施技術： 情報種別がA（事前審査）
- ・九州の技術： 情報種別がA、登録が九州地方整備局、本社が九州地方
- ・記載なし： NETIS掲載期間終了技術

技 術 名	
①	NETIS 登録 番 号
②	有 用 な 技 術 の 位 置 付 け
③	開 発 者 （ 本 社 が 存 在 す る 都 道 府 県 ）
④	開 発 者 に お け る 九 州 地 方 と の 関 連 性 （ 九 州 登 録 九 州 本 社 ： ◎ 、 九 州 外 登 録 九 州 本 社 ： ○ 、 九 州 に 共 同 開 発 者 有 り ： △ 、 そ の 他 ： - ）
⑤	九 州 地 方 へ の 機 能 性 （ 九 州 地 方 に 支 店 等 を 有 す る 場 合 ： ○ 、 そ の 他 ： - ）

○○○○工法

(有用な新技術)

QS-210300-VE

活用促進技術(2021.3.26～)

○○○○協会 (福岡県)

◎

-

①NETIS登録番号:NETIS登録番号 または NETIS掲載期間終了技術

②有用な技術の位置付け:

推奨技術、準推奨技術、評価促進技術、活用促進技術、
旧実施要領における設計比較対象技術、少実績優良技術

③開発者(本社が存在する都道府県):

開発者と本社が存在する都道府県を記載している。

④開発者における九州地方との関連性:

◎…登録が九州地方整備局で本社が九州地方の場合

○…登録が九州地方整備局以外、本社が九州地方の場合

△…登録の共同開発者が九州地方の場合

-…その他の場合

⑤九州地方への機能性:

○…九州地方に支店有り

-…その他の場合

NETIS登録番号

例:QS - 200300 - VE

1) 2)3)

1)登録地整:

QS:九州地整 SK:四国地整 CG:中国地整

KK:近畿地整 CB:中部地整 KT:関東地整

HR:北陸地整 TH:東北地整 HK:北海道開発局

OK:沖縄総合事務局

※「港湾NETIS」の登録技術は3桁目に「K」がついています。

2)番号の意味:

左から2桁の番号:登録年度(例:20は2020年度登録)

左から3番目から4桁の番号:登録年度の登録順番(例:0300)

3)情報種別:

A:申請情報のみ掲載されている技術

VR:活用効果評価を実施した技術で継続調査等の対象となった技術

VE:活用効果評価を実施した技術で継続調査等の対象としない技術

VG:掲載期間が終了した技術

■NETIS申請情報

NETISの申請情報から必要な情報（技術概要、施工情報、適用条件等）を抜粋したもので、補完調査で得た情報も追記しています。

⑥	技	術	概	要	・本技術は、地盤改良施工において障害となる地中障害物混在地盤における地盤改良技術であり、従来は事前に先行掘削工等の補助工法による対応が必要であった。本技術の活用により、補助工法が不要となりコスト縮減・工期短縮が可能となる。
⑦	概	要	図		攪拌翼全景 従来技術（二工程） 技術の概要 新技術（一工程） 杭・改良性体など 杭破砕片 コア供試体作成状況（杭破砕片混入）
⑧	施工条件・適用条件等			種類	スラリー攪拌工法（機械攪拌工法）
				攪拌形式	単軸施工、相対攪拌
				改良径	φ1500～2500
				改良長	標準施工深度20.0m～22.0m、継ぎ足し施工深度50.0m
				施工可能な土質	砂質土、粘性土、礫質土、転石300mm以下、残置地中障害物（既製コンクリート杭・既存改良体・コンクリートガラ・瓦礫等【バックドレン、ペーパードレン等】）
				N値の適用範囲	砂質土、礫質土；N≤50、粘性土N≤20
				作業空間	プラントヤード：120m ² ～150m ² 、組立ヤード：10m～15m×45m～50m程度
				施工管理	【低速回転（4.8回転/min）、一定速度（1m/min）で管理】
				周辺地盤等への影響	低速回転、竜巻状の攪拌翼による外周地盤への押圧の抑制

⑥技術の特徴を簡潔に概説

⑦技術の概要を示す図表を掲載

⑧主にNETIS情報より抜粋

補完情報…必要に応じて【 】を付けて追記（任意に問い合わせた情報等）

NETIS情報を修正…【 】内に加えて「NETIS情報を修正：～」を追記

■NETIS評価情報

新技術を活用後に提出される調査表を基に行う事後評価の結果を記載しています。

評価情報	⑨ 比較する従来技術	スラリー攪拌工法（φ1,600×2軸）非ICT施工	
	評価基準	項目	最新の活用効果評価結果, 所見
	⑩ A：従来技術より極めて優れる B：従来技術より優れる C：従来技術と同等 D：従来技術より劣る	経済性	D：－
		工程	B：・ICTにより、改良位置だし作業が減少し、工程が短縮する。
		品質・出来形	B：－
		安全性	B：・ICTにより、改良位置への誘導などの重機に近接する作業が減少する。
		施工性	B：・ICTにより、改良位置や改良深度の計測が省力化され、施工性が向上する。
		環境	C：－
		総合評価	B：－

⑨NETIS情報で記載されている「比較する従来技術」を記載

⑩NETIS情報における「⑨比較する従来技術」との比較を記載
 ・最新活用効果評価結果, 所見を記載

※評価情報における評価、コメントはNETIS情報における「比較する従来技術」と比較したものであり、工法比較表⑪以降での統一した従来技術（比較する仕様）と相違する場合があります。

■補完情報

統一した従来技術に基づいた補完調査による概算施工費用・概算施工日数や各種試験結果、現場条件への適応性を取りまとめたものです。※補完情報の項目については、全ての工種で統一されるのではなく、工種毎に必要な項目が異なるため、取りまとめ内容は異なります。

⑫⑬⑭⑮

・従来技術：標準積算基準より算出

・新技術：統一した土質条件での見積による概算
施工費用・施工日数を記載

※概算のため現場条件によって再確認が必要

※施工費用と施工日数は同一条件で比較し、
新技術で不要となる工程等を留意事項として
記載

⑯統一した従来技術との6項目比較評価を記載

※⑩評価情報の内容と異なる場合有り

・統一した従来技術との概算施工費用・
施工日数を記載

・概算であり、現場条件によって再確認
が必要

・施工費用と施工日数は同一条件で比較
し、新技術で不要となる工程等を留意
事項として記載

⑰本工法比較表の仕様の土質区分における、有
明粘土、シラス、黒ボク・赤ボク、そうら層（泥
炭）等に対する施工実績例（件数）を記述

⑲機械の運搬費用等を積算する際の参考として、
機械の保有場所、機械の保有台数等を記述

従来技術

新技術

統一した従来技術		スラリー攪拌工（単軸施工φ1000、改良深度6m、砂質土、小型機械）	
補完資料等からの情報	⑫ 工法の特徴	小型機でありながら従来大型機と同等の改良体仕様、品質を確保可能（単軸、改良径、改良深度、改良強度、変動係数、鉛直精度）。	
	⑬ 改良強度1000kN/m ² に対する概算改良材添加量	従来技術 0.205 t/m ³	新技術 0.200 t/m ³
	⑭ 共通仮設費用（組立輸送解体費用）	5,130,000円/回	1,194,680円/回
	⑮ 概算施工費用	施工費	11,677円/m
		改良材材料費	2,625円/m
		合計	14,302円/m
		標準施工規模	1000m ² 以上
	⑯ 概算施工日数	0.091日/本	0.125日/本
	⑰ 統一した従来技術との6項目比較	経済性	(14,302-8,137) / 8,137=75.8%
		工程	(0.125-0.091) / 0.091=37.4%
		品質・出来形	△：従来技術と同程度。
		安全性	△：従来技術と改良機の大きさが同程度であるため。
		施工性	△：従来技術と改良機の大きさが同程度であるため。
		環境	△：従来技術と改良機の大きさが同程度であるため。
九州のフィールドへの適応性	⑱ 施工実績（過去3年）	国土交通省：活用効果調査表数	0件（九州で0件）
		地方自治体：開発者ヒアリング	1件（九州で0件）
		その他：開発者ヒアリング	1件（九州で1件）
		九州管内での活用市町村（直轄工事活用分のみ）	-
	⑲ 改良長、土質条件における九州地方整備局管内での施工実績	無	-
		シラス	-
		有明粘土	-
		黒ボク・赤ボク等	-
		そうら層（泥炭）	-
		その他（島原焼土等）	-
⑳ 特許等	特許	第5204319号「名称：地盤改良施工機及び同施工機を使用する地盤改良工法」、第5191573号「名称：狭隘な場所での施工に適する地盤改良施工機及び地盤改良工法」等	
	建設技術審査証明	-	
㉑ 生産供給体制（機械保有台数等）		特殊攪拌翼：通常土用9個、硬質地盤用19個（滋賀県）、技術提供は全国で可 標準施工機として、小型地盤改良機（YBM製GI-80,130,220）を使用するため、九州各地で調達可能	
㉒ 備考		-	

■補完情報

発注者ニーズへの適応性、総括として技術的特徴や留意事項等を取りまとめたものです。

発注者 ニーズへの 適応性	②①	周辺地盤への変位抑制	○：内圧緩和翼により変位を抑制できる。
	②②	統一した従来技術との 比較 判定の凡例 ○：従来技術より優れる △：従来技術と同程度 －：上記以外	△：従来技術と同程度。
			△：従来技術と同程度。
			△：従来技術と同程度。
			△：従来技術と同程度。
			△：従来技術と同程度。
			○：内圧緩和翼を装備し、エアーを併用することで従来工法と同等以上の施工速度を可能とした。編成人員も、特殊作業員2名を標準とする（従来技術は3名）。
②③	総括	・内圧緩和翼と圧縮空気設備などの補助装置と地盤特性、材料特性、機械特性を総合的に検討し、施工仕様を決定するプロセス設計を導入することで大幅なコスト縮減と工期短縮が期待でき、効率よく高品質な攪拌効果が得られている（補完情報より）。 ・汎用の三点支持式杭打機をベースマシンとして使用。攪拌装置は、φ1600mmの大径攪拌翼及び当工法の特徴である内圧緩和翼を有するロッドから構成される（補完情報より）。 ・貫入時にエアーを吐出するエアー削孔を標準とする。内圧緩和翼は、エアー吐出、スラリー吐出により発生する地中内圧をスムーズに地上に排出する装置である（補完情報より）。	

②①～②②WGで設定した「発注者ニーズ」に対して、①①以降の統一した「従来技術」との比較評価を記述

■判定の凡例 ○：従来技術より優れる △：従来技術と同程度 －：上記以外

- ・省人化：当該新技術の現場作業にあたり、技術の特性等を考慮したうえ、労務編成人員について従来技術と比較評価した結果
- ・省力化：当該新技術において、施工管理システムの導入等により、現場作業の効率化等について、従来技術と比較評価した結果

②③ワーキンググループコメント

- ・技術の特徴を抜粋して記載。総括的な情報として活用可能

工法比較データベースをよりよく活用できるように、工法比較表に整理した内容について、施工費用の考え方や留意する点等をユーザーマニュアルにまとめています。

また、関連する工法の基礎的な内容を参考資料として取りまとめ、若手技術者等向けに技術的なサポートを行っています。なお、工法比較表データベースを貸与する際に、マニュアルを併せて添付いたします。

(マニュアルの構成例)

- ・ 位置付け
- ・ 種類と特性
- ・ 設計について
- ・ 使用材料及び構造図
- ・ 施工について
- ・ 維持管理について

例：軟弱地盤処理工（深層混合処理工）「工法比較表」ユーザーマニュアル（案）



- ① 工法比較表データベースは、九州地方整備局が発注する業務・工事を対象としています。
- ② 工法比較表データベースファイルは、利用期間を設定しています。期限後は、ファイルは開きません。申請業務における追加作業が必要な場合は、問い合わせフォームより連絡ください。
- ③ 工法比較表データベースファイルは、申請業務以外に使用することはできません。
- ④ 工法比較表データベースは、施工費用・施工日数等を毎年更新していますので、最新版を活用ください。
- ⑤ データベースの機能向上及び継続のため、アンケートへの回答をお願いします。
- ⑥ 詳細の使用方法は、添付ファイルの各工種「ユーザーマニュアル」をご確認ください。
- ⑦ 工法比較表データベースは、一次選定をサポートするツールです。

現場条件に基づき詳細な検討を実施し、採用工法を決定してください。なお、概算工事、施工日数等は、現場条件に合わせて調査を行ってください。

工法比較表データベースの入手方法および利用手続き

60

工法比較表データベースは、九州技術事務所よりダウンロード可能であり、ご利用にあたっては所定の借用同意書の入力が必要となります。
なお、ユーザーマニュアルについては同意書の提出は不要となります。

＜九州技術事務所HPからダウンロードまでの流れ＞

STEP 1
九州技術事務所HP
にアクセス

STEP 2
新技術情報／NETIS
→工法比較表データ
ベースを選択

STEP 3
(DB) を選択

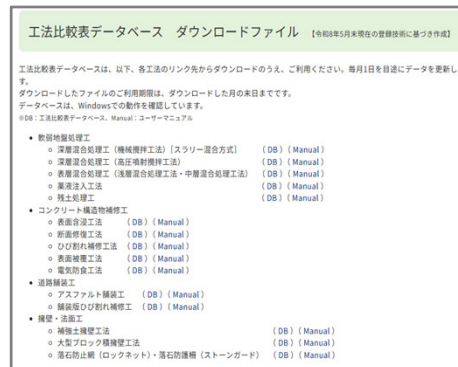
STEP 4
ダウンロード後
借用同意書を入力



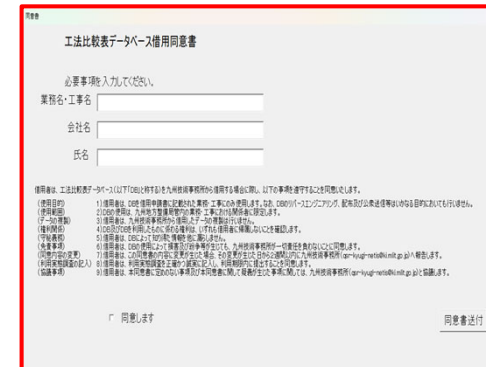
九州技術事務所HPトップ



新技術情報／NETIS ページ



データベース ダウンロード画面



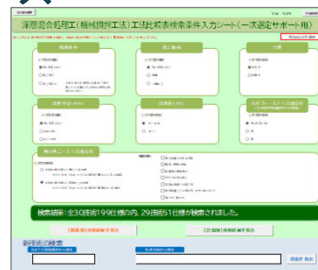
工法比較表データベース借用同意書

▼ ダウンロード後、ご利用ください。

(DB) 工法比較表データベース

利用には「借用同意書」の入力が
必要です。

→ 同意書サンプルはSTEP 4の
キャプチャを参照



(Manual) ユーザーマニュアル

DBの使用方法がわからない場合に
参照してください。

→ 借用同意書の提出は不要



工法比較表データベースの利用実態調査

61

工法比較表データベースの品質向上のため、利用実態調査を行っています。
より良いシステムへのバージョンアップのため、ご協力よろしくお願いします。

借用同意書 Ver. 5.89 更新履歴

深層混合処理工(機械攪拌工法)工法比較表検索条件入力シート〈一次選定サポート用〉

※本システムは、毎月NETIS情報を確認し、追加があれば更新していきますので、最新版を入手してお使いください。 令和8年5月現在

現場条件 いずれか選択 ☒ 特に指定しない ☐ 陸上施工 ☐ 水上施工※ ※水上施工を選択した場合、「発注者ニーズの適応性」以外の選択は無効となります。	施工機械 いずれか選択 ☒ 特に指定しない ☐ 単軸 ☐ 二軸以上	土質 いずれか選択 ☒ 粘性土 ☐ 砂質土
改良径φ(mm) いずれか選択 ☒ 特に指定しない ☐ φ≤1200 ☐ φ>1200	改良長L(m) いずれか選択 ☒ 0<L≤10 ☐ 10<L	九州フィールドへの適応性 (九州地方整備局内での実績) いずれか選択 ☒ 特に指定しない ☐ 有 ☐ 無
発注者ニーズへの適応性 いずれか選択 ☐ 従来技術と比較して優れている技術 ※チェックを入れたすべての項目が「優れている」の場合 ☒ 従来技術と比較して同等以上の技術 ※チェックを入れたすべての項目が「同等以上」の場合		
複数選択 ☐ 周辺地盤への変位抑制 ☐ 騒音・振動の低減 ☐ 粉塵等の飛散防止 ☐ リサイクル性の向上 ☐ 狭小な現場での施工性 ☐ 軟弱地盤上での施工性(トラフカビティ) ☐ 省人化・省力化		

検索結果: 全30技術199仕様の内、29技術51仕様が検索されました。

【簡易版】検索結果を表示 【詳細版】検索結果を表示

技術を表示

利用実態調査のご回答をお願いします。

※すでにご回答いただいた方は、回答は不要です。閉じるをクリックください。

利用実態調査はこちら

閉じる

利用実態調査 (Microsoft Forms)

所要時間: 約5分

QRコードからも
申請可能です。



【工法比較表データベース】 利用実態調査

このフォームを送信する際に、お客様が、ご自身のお名前やメールアドレスなどの詳細情報を入力しない限り、その情報が自動的に取得されることはありません。

* 必須

日頃より新技術の普及・活用に、ご協力を頂きありがとうございます。

「工法比較表データベース」の今後の改良および新しい工程・工法の拡充に活かすために利用実態調査にご協力をお願いいたします。

1. 業務名*

工法比較表データベースを活用された業務名を回答ください。

回答を入力してください

2. 工法比較検討の資料作成において実際の業務・工事で「工法比較表データベース」を活用しましたか。*

- ☒ はい
☐ いいえ

3. 活用した工法を選択ください。*

- ☐ 機械攪拌工法
☐ 高圧噴射攪拌工法
☐ 表層混合処理工法
☐ 薬液注入工法
☐ 残土処理工
☐ 表面含浸工法
☐ 断面修復工法
☐ ひび割れ補修工法

検索結果には、該当する技術の名称、旧NETIS番号、概要などが一覧で表示されます。
技術名称をクリックすると、NETIS掲載時のPDF資料が別ウィンドウで開き、詳細な内容を確認できます。

検索		NETIS掲載期間終了技術検索システム		※対象となる技術は、NETIS掲載期間終了技術リストより「有用な技術」または「活用状況20件以上」とします。（2025.3月時点）		
NO	NETIS登録時の技術名称	旧NETIS番号	概要	副題	開発会社	実績件数
1	Superjet(スーパージェット)工法	KK-980026-VR	①何について何をする技術なのか？ ・地表から直径15cm程度の孔を開けるだけで、地中に直径3.5m(Superjet-Midi)～5m(Superjet)までの大きな圓柱状体を造成する地盤改良技術。 ②従来技術はどのような技術で対応していたのか？ ・従来工法は水平一方向噴射で、しかも地盤の硬軟に影響され易いため、最大でもφ2.0mまでの改良体しか造成不可能であった。 ③公共工事のどこに適用できるのか？ ・立坑の底盤改良、先行地中梁 ・シールド発進、到達防護 ・大規模な土留め欠損部 ・液状化防止 ・基礎地盤の強化・安定 ・耐震補強	超大口径改良体を瞬時に造成可能な高压噴射攪拌工法	鹿島建設株式会社,ケミカルグラウト株式会社	21 件
2	LDis(エルディス)工法	KT-980135-VE	①何について何をする技術なのか？ ・高压噴射工法と機械攪拌工法を併用し、改良時に固化材混入スラリー量と同等量の原土を攪拌混合して、改良土の強度を抑制する高压噴射地盤改良工法。 ②従来はどのような技術で対応していたのか？ ・エアを併用した高压噴射工法(二重管工法)で対応していた。 ③公共工事のどこに対応できるのか？ 重要埋設物、構造物近接での変位防止対策を必要とする以下の目的に使用される。 ・河川改修工事に伴う河床および堤体部地の改良 ・盛土及び切り土のすべり防止 ・開削工事のヒービング防止、受働土圧の増加 ・構造物の支持力強化および沈下防止 ④その他工法の特徴 ・エアを併用しないため水中施工が可能である。 ・改良時に原土を地表に排出することにより、地盤へのスラリー供給に伴う体積増加をできるだけ低減可能。			
3	X-jet(クロスジェット)工法	KT-990495-V	①何について何をする技術なのか？ ・地表面から直径15cmの孔を目標深度まで開けるだけで、地中に直径2.5mの圓柱状体を作ります。 ②従来技術はどのような技術で対応していたのか？ ・従来は単一方向への高压噴流の噴射方式であるため、地盤の硬軟に左右され、一定径の改良体しか造成不可能であった。 ③公共工事のどこに適用できるのか？ ・立坑の底盤改良、先行地中梁 ・シールド発進・到達防護工 ・中規模の土留め欠損部 ・液状化防止 ・基礎地盤の強化・安定 ・耐震補強			

NETIS掲載期間終了技術

※NETIS掲載期間終了時点のデータ

新技術

新技術概要説明情報

NETIS登録番号	KT-980135-VG
技術名称	LDIS(エルディス) 工法
事後評価	事後評価済み技術 (2015/11/17 (H27/11/17))
テーマ設定型比較表への掲載	無
受賞等	推薦技術候補 推薦技術 平成15年度 重点活用技術
技術審査証明技術	建設技術審査証明
事前審査・事後評価	事前審査 事後評価 活用効果評価
技術の位置付け (有用な新技術)	推薦技術 準推薦技術 評価促進技術 活用促進技術
旧実施要領における技術の位置付け	活用促進技術(旧) 設計比較対象技術 歩実経費低技術
活用効果調査入力モード	-VG 活用効果調査が必要です。
適用期間等	設計比較対象技術 平成22年10月29日～平成27年11月20日 準推薦技術 平成26年6月23日～ 活用促進技術 平成27年11月20日～

上記※印の情報と以下の情報は申請者の申請に基づき掲載しております。 申請情報の最終更新年月日：2017/04/01

概要

新技術	
NETIS掲載期間終了技術 ※NETIS掲載期間終了時点のデータです	
新技術概要説明情報	
NETIS登録番号	KT-980135-VG
技術名称	LDis(エルディス) 工法
事後評価	事後評価済み技術 (2015/11/17 (H27/11/17))
テーマ設定型比較表への掲載	
受賞等	推薦技術候補 推薦技術 平成15年度 重点活用技術
技術審査証明技術	建設技術審査証明
事前審査・事後評価	事前審査 事前審査 活用効果評価
技術の位置付け (有用な新技術)	推薦技術 準推薦技術 評価促進技術 活用促進技術
旧実施要領における 技術の位置付け	活用促進技術(旧) 設計比較対象技術 少実積優良技術
活用効果調査入力様式	-VG 活用効果調査が必要です。
適用期間等	設計比較対象技術 平成22年10月29日～平成27年11月20日 準推奨技術 平成26年6月23日～活用促進技術 平成27年11月20日～
上記※印の情報と以下の情報は申請者の申請に基づき掲載しております。 申請情報の最終更新年月日：2017/04/01	
概要	
副題	低変位高圧噴射攪拌工法
分類 1	共通工 - 深層混合処理工 - 固結工 - 高圧噴射攪拌工

参考資料

1. NETIS情報の検索と閲覧
2. 活用効果調査表等の作成
3. 工法比較表データベースシステム
4. 九州地整管内の活用件数の多い技術

九州地整管内の活用件数の多い技術

64

令和7年度に九州地方整備局管内において活用された新技術は、以下のとおりです。

番号	NETIS登録番号	技術名	副題	有用な技術 (令和8年5月時点)	活用の効果（申請情報）						評価結果					
					経済性	工程	品質	安全性	施工性	環境	経済性	工程	品質	安全性	施工性	環境
1	KT-230048-VE	小黑板電子化アプリ「SiteBox」	現地形状等の略図作成、注釈表記が可能な電子黒板に関するアプリケーション技術		低下 (0.32%)	短縮 (0.87%)	同程度	同程度	向上	同程度	C	B	-	-	B	-
2	QS-190005-VE	現場クラウド One_現場支援機能サービス	現場の生産性向上を高める情報共有システム		向上 (0.42%)	短縮 (0.82%)	同程度	同程度	向上	同程度	B	B	-	B	B	B
3	KK-150058-VE	3次元点群処理ソフト (TREND-POINT)を用いた施工土量計測システム	3次元計測により生成された点群データのスムーズな解析処理により、施工前後および各施工段階での土量の差分を計算するシステム	R7推奨 活用促進	向上 (0.83%)	短縮 (0.79%)	向上	同程度	同程度	同程度	B	B	B	C	C	-
4	KT-180110-VE	快適オールインワンレストルーム	手洗室ユニットを増設した仮設トイレ		低下 (0.76%)	短縮 (0.00%)	同程度	向上	向上	向上	D	C	C	C	C	B
5	KT-170076-VE	通信一体型現場監視カメラ「G-camシリーズ」	モバイル通信を利用した全天候型・小型・軽量の通信一体型遠隔監視カメラ	活用促進	向上 (0.65%)	短縮 (0.99%)	向上	向上	向上	同程度	B	B	B	B	B	C
6	QS-190006-VE	VR事故体験・安全教育「ルッカ」	VR技術を活用した工事現場事故体験システム	活用促進	低下 (0.75%)	同程度	同程度	向上	同程度	同程度	D	C	C	A	C	C
7	KT-160044-VE	被膜型コンクリート表面養生剤エムキュアリング	コンクリート被膜養生剤	活用促進	向上 (0.62%)	短縮 (0.80%)	向上	同程度	向上	向上	C	B	C	B	B	B
8	KT-210015-VE	手洗場一体型レストルーム	屋外型洋式トイレ・手洗場の機能を満たしたワンストップトイレ		向上 (0.08%)	短縮 (0.50%)	同程度	同程度	低下	同程度	C	B	C	C	C	B
9	KTK-160024-VE	蔵衛門Pad	電子小黑板およびクラウドサービスを利用した工事写真管理システム	活用促進	向上 (0.73%)	短縮 (0.75%)	向上	向上	向上	同程度	B	B	B	B	B	-
10	KT-240145-VE	熱中対策アラート ハートウォッチ	深部体温を測定し熱中症のリスクを、色、音、振動により知らせるデバイス		向上 (0.77%)	同程度	同程度	向上	向上	同程度	B	C	C	B	B	C

A 従来技術より極めて優れた B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る

九州地整管内の活用件数の多い技術

65

令和7年度に九州地方整備局管内において活用された新技術は、以下のとおりです。

番号	NETIS登録番号	技術名	副題	有用な技術 (令和8年5月 時点)	活用の効果（申請情報）						評価結果					
					経済性	工程	品質	安全性	施工性	環境	経済性	工程	品質	安全性	施工性	環境
11	QS-230026-VE	工事看板や保安用品等に用いるバイオマスシート	工事看板や保安用品等に用いる生物由来の資源を使用しバイオマスマークを取得した環境に配慮したシート		低下 (0.26%)	同程度	同程度	同程度	同程度	向上	D	C	C	C	C	B
12	CB-220008-VE	合いマーク用マーカー 消え ま線	5年経ってもボルトの緩みを可視化できるマーカーペン		向上 (0.82%)	短縮 (0.90%)	向上	同程度	向上	同程度	C	C	B	C	C	C
13	KT-180127-VE	樹脂製フェンス ルーバー フェンス	仮設トイレ向け目隠し、間仕切フェンス及び誘導路確保フェンス		向上 (0.24%)	同程度	向上	同程度	向上	向上	C	C	B	C	B	B
14	KT-230099-VE	熱中対策バンド	外気温と皮膚温度を測定し、深部体温の変化を捉える熱中対策用のウェアラブルデバイス		向上 (0.61%)	同程度	向上	向上	向上	同程度	C	C	C	B	B	C
15	KT-190101-VE	SMART CONSTRUCTION Fleet	スマートフォンを利用した建設現場の動態管理システム		向上 (0.72%)	同程度	向上	向上	向上	同程度	B	C	B	B	B	C
16	QS-160015-VE	アルミ合金製法面昇降階段 「クリフステアー」	アルミ合金製による軽量設計により、設置・解体作業の負担を軽減し、法面での安全な昇降を確保		向上 (0.51%)	短縮 (0.87%)	向上	向上	向上	同程度	B	B	C	B	B	C
17	KT-170034-VE	3Dテクノロジーを用いた計測及び誘導システム	3次元データの解析、活用技術を用いて各計測装置と連動し現場の効率化を図るシステム		向上 (0.07%)	短縮 (0.10%)	同程度	同程度	向上	同程度	B	B	B	C	B	-
18	KT-220169-VE	総合気象GISプラットフォーム「Amatellus」	詳細な気象予測により作業の中止に関する判断を適切に実施		低下 (0.11%)	同程度	同程度	向上	同程度	同程度	D	B	-	B	-	-
19	KK-210003-VE	データ共有クラウドサービス「CIMPHONY Plus」	工事で活用する写真や3次元データを時間軸と位置情報で管理。3次元地図上に可視化して現場空間を再現し、状況や進捗の確認・共有を支援するデータ共有クラウドサービスです。	活用促進	向上 (0.40%)	短縮 (0.22%)	向上	同程度	向上	同程度	B	B	B	B	B	-
20	KT-230242-VE	建設工事監視システム付ソーラーハウス	通信装置及びソーラーシステムを搭載したトイレ機能の内蔵が可能なユニットハウス	活用促進	向上 (0.23%)	短縮 (0.50%)	同程度	同程度	向上	同程度	B	B	C	C	B	B

A 従来技術より極めて優れた B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る

九州地整管内の活用件数の多い技術

66

令和7年度に九州地方整備局管内において活用された新技術は、以下のとおりです。

番号	NETIS登録番号	技術名	副題	有用な技術 (令和8年5月 時点)	活用の効果（申請情報）						評価結果					
					経済性	工程	品質	安全性	施工性	環境	経済性	工程	品質	安全性	施工性	環境
21	KK-160043-VE	3次元モデルを利用したBIM／CIMコミュニケーションシステム TREND-CORE	設計図面や3次元計測データを元に施工現場を3次元モデルで表現したり、VR(バーチャルリアリティ)で体感することで、現場状況や施工手順の把握、情報共有を支援するBIM/CIMコミュニケーションシステム	R7推奨	向上 (0.42%)	短縮 (0.47%)	向上	同程度	向上	同程度	C	B	B	C	B	-
22	KK-180017-VE	ソーラー蓄電ユニットハウス	太陽光発電とリチウムイオン蓄電システムを使ったユニットハウス		低下 (1.61%)	短縮 (0.01%)	同程度	同程度	同程度	向上	D	B	C	C	B	B
23	KT-220099-VE	建設キャリアアップシステム 現場運用支援機器 建レコ キット	作業端末、IC カードリーダー、通信機器が一体となった建レコアプリを運用するユニット。		向上 (0.33%)	同程度	向上	同程度	向上	同程度	B	C	B	C	B	C
24	KT-170033-VE	SL看板用プロテクター『エ ア・ブロック』	ポリエチレン樹脂をブロー成形法で中空構造に成形し、衝撃を吸収しやすくしたSL看板用プロテクター		低下 (2.33%)	同程度	向上	向上	同程度	向上	C	C	C	B	B	B
25	QS-200052-VE	後付バックホウ3Dガイダンスシステム「スマートコンストラクション・レトロフィット」	ICT機能を有さない従来型油圧ショベルを、安価で3次元マシンガイダンスショベル化するキットおよびシステム「Smart Construction 3D Machine Guidance」	活用促進	向上 (0.13%)	同程度	同程度	同程度	同程度	同程度	B	C	C	C	C	C
26	KT-180136-VE	ペイロードメータ装着油圧ショベル	積込重量表示機能を搭載した油圧ショベル		向上 (0.13%)	短縮 (0.19%)	同程度	同程度	同程度	同程度	B	B	C	B	B	C
27	KT-220157-VE	遠隔監視カメラ ロボイグ ルアイ	現場の遠隔監視を行うためにモバイル通信を利用した全天候・小型・軽量の通信一体型モバイルカメラ		向上 (0.44%)	短縮 (0.95%)	同程度	同程度	向上	同程度	B	B	-	B	B	-
28	KT-210085-VE	クラウド対応計測器追加変更 型表示器	各環境計測器で現場を測定・モニタリング・警告を行い作業中止等の参考に使用できる機器		向上 (0.36%)	短縮 (0.46%)	同程度	同程度	同程度	向上	B	B	-	B	-	B
29	KT-160019-VE	黒球式熱中症指数計「熱中ア ラーム」TT-562(ST)	携帯可能な黒球式熱中症指数計で、暑さ指数WBGTをリアルタイム自動測定し、熱中症危険度をアラーム音と数値で知らせる製品		向上 (0.66%)	同程度	向上	向上	向上	同程度	B	-	-	B	B	-
30	KT-240010-VE	電子小黑板入力支援アプリ 「黑板作成・連携ツール」	現場デバイス（弊社無償アプリ「どこでも写真管理Plus」をインストールしたスマートフォン）で電子小黑板データ入りの写真を撮影、さらにPC上で電子小黑板データの入力支援を行なうことにより、現場デバイス上での作業を最小限に抑えるアプリ		向上 (0.65%)	短縮 (0.78%)	向上	同程度	向上	同程度	B	B	B	C	B	C

A 従来技術より極めて優れた B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る